

平成23年度第7回SPODネットワークコア運営協議会 議事次第

日 時：平成23年12月16日（金） 13：30～15：30

場 所：愛媛大学城北キャンパス 愛大ミューズ3階会議室

議 題：

1. 平成24年度SPOD事業経費について

- ・平成24年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」事業経費（修正案）

【資料1】

- ・平成23年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」事業経費 【参考資料1】

2. SPOD内講師派遣について

- ・平成23年度SPOD内講師派遣プログラム別実施状況 【資料2-1】

- ・平成24年度SPOD内講師派遣プログラム一覧（案） 【資料2-2】

- ・平成23年度SPOD内講師派遣プログラム一覧 【参考資料2】

3. 研修プログラムガイド2012について

- ・「研修プログラムガイド2012」の作成について（案） 【資料3-1】

- ・平成24年度SPODに開放するプログラム（研修プログラムガイド2012掲載）
一覧について 【資料3-2】

- ・平成24年度学内向け研修プログラム一覧 【資料3-3】

- ・「研修プログラムガイド2012」チェックリスト（記載例） 【資料3-4】

4. 平成23年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」総会及び FD／SD分科会の開催について

- ・平成23年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」総会及び
FD／SD分科会 実施要項（案） 【資料4】

5. 平成23年度SPOD事業評価委員会の開催について

- ・平成23年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」（SPOD）
事業評価委員会実施要項（案） 【資料5-1】

- ・「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」（SPOD）事業評価委員会要項
【資料5-2】

- ・「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」事業評価委員会委員名簿【資料５－３】
6. 「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」における初年次教育に関するFDプログラムの実施について
- ・「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」（SPOD）における初年次教育に関するFDプログラムの実施について【資料６－１】
 - ・SPOD研修プログラム2011アンケート集計結果【資料６－２】
 - ・初年次教育の内容及びその教授法に関する研修会参加者数一覧【参考資料３】
7. 大学教育カンファレンス in 徳島の開催について
- ・平成23年度 全学FD 大学教育カンファレンス in 徳島の開催について（ご案内）【資料７－１】
 - ・平成23年度 全学FD 大学教育カンファレンス in 徳島プログラム【資料７－２】
 - ・ラウンドテーブルⅠ「学生への心理支援の実状と課題」チラシ【資料７－３】
 - ・教員のための「教える・学ぶ・ケアする」ワークショップチラシ【資料７－４】
8. 講師養成研修について
- ・講師養成研修「プレゼンテーション入門（大学人，社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルⅠ））」実施要項【資料８】
9. 平成23年度 学務系職員養成プログラム研修について
- ・平成23年度 学務系職員養成プログラム研修（レベルⅠ－１）アンケート集計結果【資料９－１】
 - ・平成23年度 学務系職員養成プログラム研修（レベルⅠ－２）アンケート集計結果【資料９－２】
10. その他
- ・特定非営利活動法人南大阪地域大学コンソーシアムの概要【資料10－１】
 - ・平成23年度 愛媛大学 広報トップセミナーの開催について【資料10－２】

平成23年度SPOD内講師派遣プログラム実施状況一覧(プログラム別)

平成23年12月15日現在

区分	プログラム名(実施回数)	開催日	開催校名		参加者数	講師担当校	講師	備考(実施状況)
FD	シラバスの書き方(1)	12月16日(金)	香川	香川大学		徳島大学	宮田	
		6月10日(金)	愛媛	新居浜工業高等専門学校	20	香川大学	葛城	済
	講義法の基本(4)	7月29日(金)	香川	香川県立保健医療大学	28	香川大学	葛城	済
		7月30日(土)	香川	高松大学・高松短期大学	19	香川大学	佐藤	済
		8月30日(火)	高知	高知学園短期大学	41	香川大学	佐藤	済
		11月30日(水)	徳島	阿南工業高等専門学校	55	徳島大学	宮田, 吉田	済
	効果的なグループワークの技法(2)	9月22日(木)	愛媛	愛媛大学	5	高知大学	立川	済
		9月27日(火)	高知	高知工業高等専門学校	11	高知大学	立川	済
		9月7日(水)	高知	高知県立大学・高知短期大学	27	高知大学	立川	済
		9月15日(木)	徳島	徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部	66	愛媛大学	佐藤	済
	様々な授業改善の技法(5)	9月20日(火)	愛媛	今治明德短期大学	17	高知大学	俣野	済
		9月30日(金)	愛媛	愛媛女子短期大学	26	愛媛大学	佐藤	済
		12月19日(月)	愛媛	愛媛県立医療技術大学		愛媛大学	佐藤	
		6月25日(土)	香川	香川短期大学	36	愛媛大学	秦	済
		7月15日(金)	徳島	徳島工業短期大学	17	徳島大学	香川	済
		7月29日(金)	香川	香川高等専門学校	14	徳島大学	香川	済
SD	ティーチング・ポートフォリオ入門(4)	12月9日(金)	徳島	徳島大学	32	愛媛大学	秦	済 内遠隔28名
		6月16日(木)	愛媛	弓削商船高等専門学校	27	愛媛大学	佐藤	済
		7月22日(金)	高知	高知工科大学	20	愛媛大学	秦	済
		8月9日(火)	愛媛	松山東雲女子大学・松山東雲短期大学	30	愛媛大学	秦	済
	大学職員のための企画力養成講座(4)	8月30日(火)	愛媛	聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部	35	愛媛大学	秦	済
		9月9日(金)	高知	高知大学	24	愛媛大学	秦	済
		9月12日(月)	徳島	四国大学・四国大学短期大学部	31	愛媛大学	米澤, 秋谷	済
	SDプログラム開発手法(1)							
	「スタッフポート・ポートフォリオ入門」,「SDの意義と実践事例」,「人事人材育成ビジョンの必要性」は実施なし							
	「加盟校におけるFD・SDの現状と課題に関するコンサルティング」は実施なし							

FDプログラム派遣先				SDプログラム派遣先				計
大学名	徳島	香川	愛媛	高知	徳島	香川	愛媛	高知
徳島	2	2	-	-	-	-	-	0
香川	-	2	1	1	-	-	-	0
愛媛	2	1	3	-	1	-	2	5
高知	-	-	2	2	-	-	-	0
								23

※派遣希望なし
 鳴門教育大学(徳島)
 四国学院大学(香川)
 松山大学・松山短期大学(愛媛)

平成24年度SPOD内講師派遣プログラム一覧(案)

大学名	
-----	--

SPODの共通事業であるSPOD内講師派遣(各加盟校1回1プログラム。ただし、短期大学及び短期大学部が併設されている4年制大学については、あわせて1回とする。)で提供するプログラムのうち、講師派遣を希望するプログラムを3つ選んでいただき、「希望順位」欄に希望順に1～3の番号を記載してください(必ず3つお選びください)。各加盟校から回答をいただいたのち、コア校で講師を調整し、連絡します(実施内容等の詳細については、担当講師と直接ご相談いただくことになります)。なお、希望プログラムが無い場合には、対象校と相談の上で、プログラムNo. 17として情報交換等のために訪問させていただきます。

No.	区分	講師派遣元	プログラム名	標準時間数	形態	希望順位
1	FD	コア校	学生の学びを促すシラバスの書き方	2時間	講義, ミニワーク	
2	FD	コア校	大人数講義を魅力的にするテクニック	2時間	講義, ミニワーク	
3	FD	コア校	基礎から学ぶ学習評価法	2時間	講義, ミニワーク	
4	FD	コア校	学生が動く・変わる・活き活きするグループワークの進め方	2時間	講義, ミニワーク	
5	FD	コア校	マンネリ化しない公開授業の秘訣～公開授業の効果的実施方法～ ※1	2時間	講義, ミニワーク	
6	FD	コア校	授業アンケートを見直しませんか? ～アンケートの効果的実施と活用方法～ ※1	2時間	講義, ミニワーク	
7	FD	コア校	ティーチング・ポートフォリオ入門～教育実践のリフレクション～	2時間	講義, ミニワーク	
8	FD	コア校	教育の質保証とは何か～スタンダード設定からアセスメントまで～ ※新規	2時間	講義, ミニワーク	
9	FD	コア校	学生が輝くFDの実践事例	2時間	講義	
10	FD	阿南高専	高専生を元気にする学生指導法のコツ ※新規	2時間	講義, ミニワーク	
11	SD	コア校	大学職員のための企画力養成講座	2時間	講義, ミニワーク	
12	SD	コア校	スタッフポート・ポートフォリオ入門～職員と大学が共に輝くために～	2時間	講義, ミニワーク	
13	SD	コア校	持続可能なSDプログラムの開発手法	2時間	講義, ミニワーク	
14	SD	コア校	人事人材育成ビジョンの必要性	2時間	講義, ミニワーク	
15	SD	コア校	学生の自立を促す学生支援の実践とコツ ※新規	2時間	講義, ミニワーク	
16	SD	コア校	職員が輝くSDの実践事例	2時間	講義	
17	FD・SD	コア校	FD・SDを効果的に進める組織づくり～事例紹介とお悩み相談～※2	2時間	相談の上, 決定	

※1 平成23年度SPOD内講師派遣プログラム「様々な授業改善の技法(授業コンサルティング・公開授業・授業アンケート)」を2つのプログラムに分けたものです。
 ※2 加盟校へ訪問してのFD・SDの現状と課題に関する情報交換, 成功事例の紹介等, 加盟校の実態に合わせて内容, 形態とも柔軟に対応します。

平成24年度SPOD内講師派遣プログラム一覧(案)

大学名	〇〇大学・短期大学部
-----	------------

SPODの共通事業であるSPOD内講師派遣(各加盟校1回1プログラム。ただし、短期大学及び短期大学部が併設されている4年制大学については、あわせて1回とする。)で提供するプログラムのうち、講師派遣を希望するプログラムを3つ選んでいただき、「希望順位」欄に希望順に1～3の番号を記載してください(必ず3つお選びください)。各加盟校から回答をいただいたのち、コア校で講師を調整し、連絡します(実施内容等の詳細については、担当講師と直接ご相談いただくことになります)。なお、希望プログラムが無い場合には、対象校と相談の上で、プログラムNo. 17として情報交換等のために訪問させていただきます。

No.	区分	講師派遣元	プログラム名	標準時間数	形態	希望順位
1	FD	コア校	学生の学びを促すシラバスの書き方	2時間	講義, ミニワーク	
2	FD	コア校	大人数講義を魅力的にするテクニック	2時間	講義, ミニワーク	1
3	FD	コア校	基礎から学ぶ学習評価法	2時間	講義, ミニワーク	
4	FD	コア校	学生が動く・変わる・活き活きするグループワークの進め方	2時間	講義, ミニワーク	
5	FD	コア校	マンネリ化しない公開授業の秘訣～公開授業の効果的实施方法～ ※1	2時間	講義, ミニワーク	2
6	FD	コア校	授業アンケートを見直しませんか? ～アンケートの効果的実施と活用方法～ ※1	2時間	講義, ミニワーク	
7	FD	コア校	ティーチング・ポートフォリオ入門～教育実践のリフレクション～	2時間	講義, ミニワーク	
8	FD	コア校	教育の質保証とは何か～スタンダード設定からアセスメントまで～ ※新規	2時間	講義, ミニワーク	
9	FD	コア校	学生が輝くFDの実践事例	2時間	講義	
10	FD	阿南高専	高専生を元気にする学生指導法のコツ ※新規	2時間	講義, ミニワーク	
11	SD	コア校	大学職員のための企画力養成講座	2時間	講義, ミニワーク	3
12	SD	コア校	スタッフポート・ポートフォリオ入門～職員と大学が共に輝くために～	2時間	講義, ミニワーク	
13	SD	コア校	持続可能なSDプログラムの開発手法	2時間	講義, ミニワーク	
14	SD	コア校	人事人材育成ビジョンの必要性	2時間	講義, ミニワーク	
15	SD	コア校	学生の自立を促す学生支援の実践とコツ ※新規	2時間	講義, ミニワーク	
16	SD	コア校	職員が輝くSDの実践事例	2時間	講義	
17	FD・SD	コア校	FD・SDを効果的に進める組織づくり～事例紹介とお悩み相談～※2	2時間	相談の上, 決定	

※1 平成23年度SPOD内講師派遣プログラム「様々な授業改善の技法(授業コンサルティング・公開授業・授業アンケート)」を2つのプログラムに分けたものです。
 ※2 加盟校へ訪問してのFD・SDの現状と課題に関する情報交換, 成功事例の紹介等, 加盟校の実態に合わせて内容, 形態とも柔軟に対応します。

「研修プログラムガイド2012」の作成について（案）

（趣旨）

SPOD加盟校において実施するFD／SDプログラムの中で、SPOD加盟校に開放可能なプログラムについては、予め内容及びスケジュールを示すことにより、加盟校の教職員が参加しやすいようにする。また、各加盟校で実施しているプログラムを参考できるようにする。

（対象プログラム）

全SPOD加盟校の①～⑤のプログラム

①FD（教員対象）、②FD／SD（教職員対象）、③FDer養成（ファカルティ・デベロッパー対象）、④プレFD（大学院生対象）、⑤SD（職員対象）

（全体構成）

- 「研修プログラムガイド2012」発刊にあたって
- 利用の手引き
- SPODの概要説明
- ~~○ 目次表~~
- プログラム一覧（日程別、開催場所別、テーマ別）
- SPOD加盟校内講師派遣プログラム一覧
- ~~○ レベル別マップ（新規項目）~~
- 提供プログラム紹介（FD／SD）
- SPODフォーラム紹介
- 遠隔配信専用プログラム一覧（新規項目） ※掲載するか要検討
- （参考）各大学学内向け（学外非公開）研修一覧
- 申込み・お問い合わせ・遠隔配信に関する説明
- その他

（原稿作成）

別紙「研修プログラムガイド原稿作成要領」のとおり。

（発行時期等）

発行時期：平成24年4月下旬

発行部数：A4サイズ 7,300部（SPOD加盟校 教員 4,765＋職員 2,216＋予備 319部）

※教職員数は平成24年度負担金積算根拠数による

※平成23年度の発行部数は7,300部

（作成スケジュール）

- 2月中旬 掲載プログラムの確定（昨年度：2月10日）
プログラム名、FD/SD等の区分、遠隔配信の有無
- 2月末日 各コア校への原稿締め切り（昨年度：2月28日）
- 3月上旬 編集責任校への原稿締め切り（昨年度：3月10日）
- 3月下旬 印刷業者原稿渡し
- 4月下旬 印刷業者納品、各大学へ配付

(別紙)

研修プログラムガイド 原稿作成要領

SPOD FD/SDガイドブックに掲載する「加盟校に開放するプログラム」について、「研修プログラムガイド2011」の記載内容を参考にしながら、下記の作成要領に従い、「内容紹介」の原稿作成をお願いします。レイアウト等については、フォーマットに落とし込んだ上で調整しますので、文章等について word 等で作成してご提出ください。

原稿作成〆切：平成24年2月末日

原稿提出先：各コア校

編集責任校：愛媛大学（担当：教育・学生支援機構 教育企画室、SPOD事務局）

※作成にあたっては、各コア校と連携・協力して行う。

【1回2～3時間程度のセッションの場合】…半ページ

- ① 目標 … 50～70字程度
- ② 講師氏名・所属大学・所属部署名 … （例）〇山〇夫（△△大学〇〇）
- ③ 日時・場所 … 具体的な教室名（建物名、階も）
- ④ 主な対象者 … 40字以内（例）全教員，とりわけ講義を持つようになって間もない教員
- ⑤ 対象校（地域別，設置形態別）… 留意事項をご覧ください。
- ⑥ 受講定員
- ⑦ 主催 … （例）愛媛大学教育企画室
- ⑧ 参考資料 … 参考となる書籍の名称等
- ⑨ 内容 … 箇条書きで合計400～480字程度
- ⑩ 参考となる写真，ポンチ絵（スライド）があれば1枚お送りください。
- ⑪ 受講者の声（アンケートからなど）
- ⑫ 準備物について
- ⑬ 申込み先・問い合わせ先

【合宿セミナー等】…1ページ

- ① 目標 … 250字程度
- ② 講師氏名・所属大学・所属部署名… （例） 〇山〇夫（△△大学〇〇）
- ③ 日時・場所 … 具体的な教室名（建物名，階も）
- ④ 主な対象者 … 40字以内（例）全教員，とりわけ講義を持つようになって間もない教員
- ⑤ 対象校（地域別，設置形態別）… 留意事項をご覧ください。
- ⑥ 受講定員
- ⑦ 主催 … （例）愛媛大学教育企画室
- ⑧ 参考資料 … 参考となる書籍の名称等
- ⑨ 内容 … 箇条書きで合計1000字程度
- ⑩ 参考となる写真，ポンチ絵（スライド）があれば1枚お送りください。
- ⑪ 受講者の声（アンケートからなど）
- ⑫ 準備物について
- ⑬ 申込み先・問い合わせ先

(記載にあたっての留意事項)

④主な対象者欄

対象者は、ニーズとのミスマッチを防ぐために、教員、職員、大学院生などの職種やニーズを明確に表現してください。複数を対象としても構いません。

- 例 1) 授業でのグループディスカッションやゼミでのディスカッションをより活性化させたい教員
- 例 2) FD を担当する教職員
- 例 3) 新任教員(但し、授業担当経験 5 年以上を除く)、参加を希望する教員、
- 例 4) 職員(課長補佐以上)

また、記載方法については、以下の点にご留意ください。

- ・記載を統一する。
 - 「事務職員、大学職員等」→「職員」。
 - 「新規に採用された教員、初任者教員等」→「新任教員」
- ・対象校を表す言葉（〇〇大学、SPOD 加盟校等）を使用しない。
 - 「・・・である SPOD 加盟校の職員」→「・・・である職員」
 - 「・・・以上の愛媛大学教職員」→「・・・以上の教職員」
- ・役職を統一する（大学独自の役職名ではなく、一般的な役職名にする）。
 - 「グループリーダー」、「副課長」、「チームリーダー」等は使用せず、「課長」「課長補佐」、「係長」、「主任」、「係員」とする。

⑤対象校（地域別、設置形態別）

できる限り SPOD 全加盟校に開放してください。記載方法は、以下例示のように記載してください。

(例)

- ・ SPOD の全加盟校に開放・・・SPOD 全加盟校
- ・ 愛媛県内加盟校のみ開放・・・SPOD 加盟校（愛媛県内のみ）
- ・ 短期大学のみ開放・・・SPOD 加盟校（短期大学のみ）
- ・ 愛媛県内の私立大学のみ開放・・・SPOD 加盟校（愛媛県内の私立大学のみ）

⑨内容

対象プログラムがどのようなことを行うか分かるように詳しく記載してください。例えば、章毎のタイトルなどを明示するとわかりやすくなります（「研修プログラムガイド 2011」参照）。

⑬ 申込み先・問い合わせ先

各プログラムの担当部署について、以下の項目を必ず記載ください。

- ・ 部署名
- ・ 担当者名
- ・ 住所
- ・ 電話番号、FAX 番号
- ・ メールアドレス

平成24年度SPODに開放するプログラム（研修プログラムガイド2012掲載）一覧について

所属機関名					備考
研修名	日程	区分 (選択式)	遠隔配信 (選択式)		
1					
2					
3					
4					
5					

(留意事項)

※本一覧表は、次の2つの目的で利用しますので、**平成24年2月10日(金)**までに所属する県のコア校及び愛媛大学教育企画課 (spod@stu.ehime-u.ac.jp) に提出してください。

(1) 各コア校が、平成24年2月29日締切の原稿をチェックするために必要な作業量の目安を把握するため。

(2) 「研修プログラムガイド2012」のページ数の目安を把握し、印刷期間、金額等をあらかじめ、業者と検討するため。

※本一覧表を提出する時点で、実施の可否が未定のものは、その旨を記載した上で一覧表に掲載(記載例参照)し、原稿提出期限(平成24年2月29日)までに最終結果を所属する県のコア校へ連絡してください。

※区分欄は「FD、FD/SD、FDer、プレFD、SD」のうち、一つを選択してください。

※遠隔配信欄は、遠隔講義システムを持っている加盟校に対して、遠隔配信が可能な場合は「○」を選択してください(必ず、研修等講師に遠隔配信の有無について確認してください)。

※適宜、枠を増やしてご利用ください。

(記載例)

研修名	日程	区分 (選択式)	遠隔実施 (選択式)	備考
わかりやすいシラバスの書き方	9月7日(金)	FD	○	
様々な評価方法	9月7日(金)	FD	×	現在、実施の可否検討中 (2月末の原稿提出時に回答)
グループ学習のコツ	未定	FD	未定	実施はするが、日程及び遠隔配信については現在 在検討中(2月末の原稿提出時に回答)

平成24年度学内向け研修プログラム一覧

所属機関名			
研修名	対象者	開催時期	目的・内容

(留意事項)

※本一覧は、各加盟校で実施されている研修・研究会のプログラムを他の加盟校が参考にするため「研修プログラムガイド2012」に掲載しますので、
平成24年2月29日(水)までに所属する県のコア校に提出してください。
※平成24年度に各大学等において、学内向けに行うFD／SD／TAD研修・研究会等を記載例及び「研修プログラムガイド2011」のP76～80を参考に記入してください。
※開催時期について、未定の場合は、「〇月中旬」、「未定」等で構いません。
※適宜、枠を増やしてご利用ください。

(記載例)

研修名	対象者	開催時期	目的・内容
新任教職員研修	新規採用者(教職員)	4月4日(水)～5日(木)	新たに採用になった教職員に対し、本学職員としての使命と心構えを自覚させるとともに、業務遂行に必要な基礎知識、能力及び資質等を養成することを目的とする。

「研修プログラムガイド2012」チェックリスト(記載例)

①プログラム名【わかりやすいシラバスの書き方】(愛媛大学)

②対象 (以下より、あてはまる選択肢をひとつお選びください。)

【☒ FD / SD , FDer , プレFD , SD 】

③カテゴリ分類 (以下より、適当なカテゴリをひとつお選びください。ただし、編集の都合上、変更になる場合がございますので、あらかじめご了承ください。)

【☒ 授業の基本 , ICT , 参加型授業 , 多様な学生への支援 , 学習環境 , 職場環境 , ファカルティー・ディベロッパー , その他 】 * 各カテゴリについては「研修プログラムガイド2010」をご参照ください。④遠隔配信 【☒ 有 , 無 】

⑤FD レベルマップ(該当する枠中に○印をご記入ください。複数可)

フェーズ \ レベル	ミクロ 個々の教員 授業・教授法	ミドル 教務委員 カリキュラム・プログラム	マクロ 管理者 組織の教育環境・教育制度
I 導入(気づく・わかる)	○		
II 基本(実践できる)	○		
III 応用(開発・報告)			
IV 支援(教えられる)			

※SD レベルマップは、愛媛大学の SD 担当で作成しますので、チェック不要です。

⑥原稿内容(以下の項目について、明記されておりましたら、チェック欄に○印をご記入ください)

NO.	項目	確認事項	チェック欄
1	目 標	目標が50～70字程度で明記されている	○
2	講師氏名等	講師氏名・所属大学・所属部署名が明記されている	○
3	日 時・場 所	日時・場所について明記されている。場所については具体的な教室名(建物、階数)が明記されている	○
4	主な対象者	40字以内で明記されている ・語句の統一(教職員、職員、新任教員に統一)がされている ・役職の統一(課長、課長補佐、係長、主任、係員に統一)がされている	○
5	対 象 校	対象校について明記されている ・SPOD 全加盟校か SPOD 加盟校(〇〇県内のみ、短期大学のみ等)と明記されている	○
6	参考資料	参考となる書籍の名称等が明記されている	○
7	内 容	箇条書きで合計400～480字程度で明記されている	○
8	参考となる写真等	参考となる写真、ポンチ絵(スライド)等を添付している	○
9	受講者の声	「受講生の声」について明記されている	○
10	準 備 物	準備物について明記されている	○
11	全 体	誤字・脱字がないか	○

平成23年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」総会
及びFD／SD分科会 実施要項（案）

- 主 催：四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）
日 時：平成24年3月 13：00～16：00
場 所：（総会）愛媛大学城北キャンパス南加記念ホール
（FD／SD分科会）愛媛大学城北キャンパス愛大ミューズ
出 席 者：（総会）加盟校各大学長、短期大学長、高等専門学校長等
（FD／SD分科会）加盟校 FD／SD担当者等

【FD／SD分科会】※FD分科会及びSD分科会を2箇所で開催

- 13：00 各加盟校での取り組み状況の報告
今後の具体的な事業の進め方について
意見交換 など

14：00 閉会

【総 会】

- 14：30 開会挨拶 SPOD会長：愛媛大学長

14：35 平成23年度の「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」事業の
実施状況について

14：00 平成24年度の「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」事業の
運営について

15：30 質疑応答

16：00 閉 会

平成23年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」(SPOD)

事業評価委員会実施要項(案)

(趣旨)

平成23年度における「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(ネットワーク略称＝SPOD)」の活動内容や前年度の評価委員からの指摘事項に対する改善状況について、実績報告書をもとにSPOD事業評価委員会委員から評価を行っていただき、今後の事業推進に役立てる。

(主催)

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク

(日時)

平成24年3月(3時間程度開催予定)

※各委員との日程調整後、正式に決定する。

(場所)

愛媛大学城北キャンパス愛大ミューズ(松山市文京町3番)

(参加予定者)

SPOD事業評価委員会委員

小田委員(山形大学)、各務委員(順天堂大学)、佐藤委員(愛媛大学)、
塩崎委員(高知大学)、夏目委員(名古屋大学)

SPOD関係者

ネットワークコア校のSPOD－FD／SD担当者

(事務担当)

愛媛大学教育学生支援部教育企画課(SPOD事務局)

「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」（SPOD）
事業評価委員会要項

平成21年3月6日
ネットワークコア運営協議会決定

（設置）

第1条 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク規約第11条の規定に基づき、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（以下「SPOD」という）に事業評価委員会（以下「評価委員会」という）を置く。

（目的）

第2条 評価委員会は、SPOD実施事業に対して評価を行い、もってSPOD実施事業の改善に資することを目的とする。

（組織及び運営）

第3条 評価委員会は、企画・実施統括者、SPOD事業担当者及びSPOD加盟校以外の大学等関係者（大学等におけるFD／SD活動に造詣が深い者）をもって組織する。ただし、SPOD事業担当者は、全委員の半数以下でなければならない。

- 2 前項の委員は、ネットワークコア運営協議会（以下、「運営協議会」という。）の議を経て、会長が委嘱する。
- 3 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
- 4 委員会に議長を置き、企画・実施統括者をもって充てる。議長に事故があるときは議長が予め指名する委員が、その職務を代行する。
- 5 委員会に関する事務は、代表校において処理する。

（評価方法）

第4条 評価委員会は、運営協議会が作成した実績報告書を基に、評価を行うものとする。

（評価項目）

第5条 委員会は、次に掲げる事項について評価を行う。

- （1）SPODの組織運営体制に係る事項
- （2）SPODの行うFD事業に係る事項
- （3）SPODの行うSD事業に係る事項

（評価の公表）

第6条 SPODは、評価結果をホームページ等を通じて公表する。

附 則

この要項は、平成21年3月6日から施行する。

附 則

この要項は、平成23年4月1日から施行する。

「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」

事業評価委員会委員名簿

(平成23年4月1日現在)

小田 隆治 山形大学高等教育研究企画センター 教授

各務 正 順天堂大学総務局企画調整室 部長

佐藤 浩章 愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 副室長

塩崎 俊彦 高知大学総合教育センター 教授

夏目 達也 名古屋大学高等教育研究センター 教授

(計5名 五十音順)

**「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」(SPOD)における
初年次教育に関するFDプログラムの実施について**

【趣旨】

「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」(以下「SPOD」という。)では、授業改善のファカルティ・ディベロップメント(FD)として、既に授業を担当している教員向けの、「各種FDプログラムの体系化・標準化に向けた開発、実施」に取り組んでいる。平成21年度より、SPODにおいて実施するFD/SDプログラムを網羅的に掲載した統一ガイドブックを作成し、加盟校の全教職員に配布している。これにより、単独の組織ではなしえない多様なFDプログラムを受講することが可能になり、各加盟校及び外部からも高い評価を得ている。その一方で、各加盟校からは、ニーズを反映したFDプログラムのさらなる開発・実施を求める意見が多数ある。特に、各加盟校との意見交換によるニーズ調査を実施する中で、初年次教育に関する取組の実施についてニーズが多数あった。このことに対応するため、平成22年度のSPODのFDプログラムの一つとして、初年次教育に関する以下の取組を実施した。今年度も引き続き要望が寄せられているため、同取組を再度実施する。なお、実施時期については、平成24年度の初年次教育の実施に間に合うことを前提にしている。

【取組内容】

1. 初年次教育の内容及びその教授法に関する研修会(愛媛大学での事例をもとに)を実施する。

日 時：平成23年11月16日(水) 15:30～18:00

場 所：愛媛大学城北キャンパス愛大ミュージズ1階アクティブ・ラーニングスペース2

※希望する加盟校には、遠隔講義システム配信も行う。

2. メール等により、各加盟校に対して、愛媛大学が実際使用している初年次教育に関する教材の一部「提供する教材」を紹介し、その提供希望について調査する。
3. 2の調査に基づき、希望する加盟校へ教材を提供する。

【提供する教材】

1. 「ノートのととり方」に関する講師用資料及び学生への配布資料
2. 「情報整理法」に関する講師用資料及び学生への配布資料
3. 「文章の読み方」に関する講師用資料及び学生への配布資料
4. 「レポートの書き方」に関する講師用資料及び学生への配布資料
5. 「プレゼンテーション」に関する講師用資料及び学生への配布資料

※教材は、PDF形式で配布する。

※教材の利用にあたっては、下記の利用条件を遵守すること。

<教材の利用条件>

1. 初年次教育の内容及びその教授法に関する研修を受講していること。ただし、研修を受講できない場合には、研修を収録したDVDを視聴し、利用に関する留意事項等を確認していること。
2. 提供した教材は、当該加盟校の教職員及び学生以外に配付しないこと。
3. 提供した教材を利用して授業を実施した場合は、SPOD事務局に実施日、実施内容、使用教材、講師、受講者を報告すること。

SPOD研修プログラム2011アンケート集計結果

セミナー名: 初年次教育の内容及びその教授法に関する研修会
 佐藤浩章、山田剛史、城間祥子(愛媛大学)
 実施日: 平成23年11月16日(水)
 実施会場: 愛大ミュージ1階 アクティブ・ラーニングスペース2

当日参加者数: 5名(愛媛医療技術大学、高知県立大学、松山東雲短期大学、今治明德短期大学)
 アンケート回答者数: 5名

1. 参加者ご自身について

(1) 所属先

	度数	割合
① 大学	3	60.0
② 短期大学	2	40.0
③ 高等専門学校	0	0.0
④ その他()	0	0.0
計	5	100.0

その他の記述内容

(2) 所属先の設置者

	度数	割合
① 国(国立大学法人)	0	0.0
② 地方自治体(公立大学法人を含む)	3	60.0
③ 学校法人	2	40.0
④ その他()	0	0.0
計	5	100.0

その他の記述内容

(3) 所属先の所在地

	度数	割合
① 四国	5	100.0
② 北海道	0	0.0
③ 東北	0	0.0
④ 関東	0	0.0
⑤ 中部	0	0.0
⑥ 近畿	0	0.0
⑦ 中国	0	0.0
⑧ 九州・沖縄	0	0.0
計	5	100.0

(4) 職種

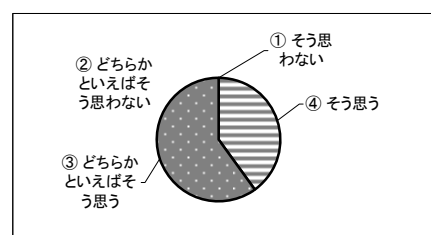
	度数	割合
① 教員	5	100.0
② 職員	0	0.0
③ 学生	0	0.0
④ その他()	0	0.0
計	5	100.0

その他の記述内容

2. このセミナーについて

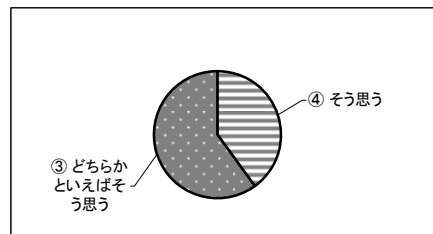
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	2	40.0
③ どちらかといえばそう思う	3	60.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	5	100.0



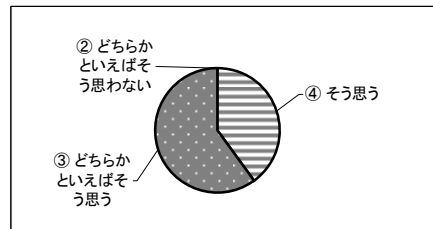
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	2	40.0
③ どちらかといえばそう思う	3	60.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	5	100.0



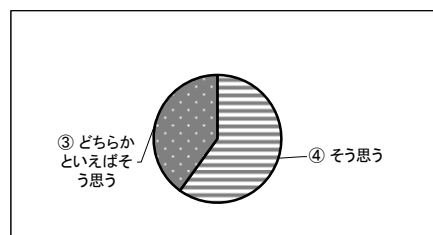
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	2	40.0
③ どちらかといえばそう思う	3	60.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	5	100.0



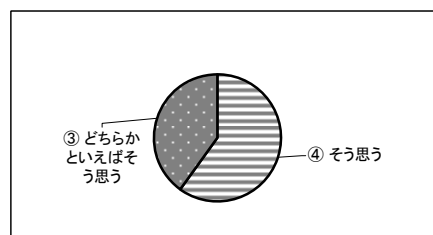
(4) 研修はわかりやすい順序ですすめられた

	度数	割合
④ そう思う	3	60.0
③ どちらかといえばそう思う	2	40.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	5	100.0



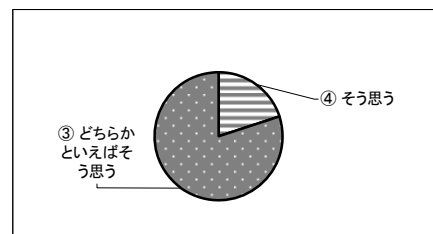
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	3	60.0
③ どちらかといえばそう思う	2	40.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	5	100.0



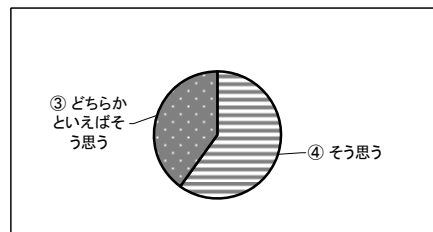
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	1	20.0
③ どちらかといえばそう思う	4	80.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	5	100.0



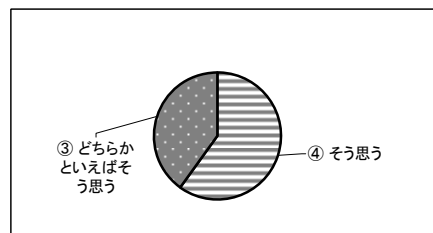
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	3	60.0
③ どちらかといえばそう思う	2	40.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	5	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	3	60.0
③ どちらかといえばそう思う	2	40.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	5	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。
- 本務校での初年次教育において、必ずしも十分な効果があげられていないものを改善するうえで、十分に参考になるものだった。
 - 今年度より、教員になりましたので、ここまでする必要があるという大学、学生の現状を実感いたしました。教員の講義設計への意識にもつながると思います。
 - 他の大学も同じような課題をかかえており、それに向けて対策を考えていることが知れたこと。
4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。
- 別のトピックでの講義にも興味がありました。とくに、ディスカッション、コミュニケーション技法の育成にはとても苦労しているので、ぜひうかがってみたいです。
 - 研修を受けた参加校のその後のフィードバックがどのような形で実現可能か、課題だと感じる。これからの取り組み次第だと思いますが。
 - こうしたプログラムを実施するマイナス面もあると思うのですが、どうでしょう。とくに学生に対して。極端ですが、1年次のこの段階ですることの効果はもちろんありますが、学生によっては逆効果になる場合もあるかと思います。併せて入学前プログラムの作成も必要かと思います。

SPOD研修プログラム2011アンケート集計結果

セミナー名:初年次教育の内容及びその教授法に関する研修会

講師名:佐藤浩章、山田剛史、城間祥子(愛媛大学)

実施日:平成23年11月16日(水)

実施会場:【遠隔】高知大学、徳島文理大学(香川キャンパス・徳島キャンパス)、高松大学、高知学園短期大学

当日参加者数:41名

アンケート回答者数:38名

1. 参加者ご自身について

(1) 所属先

	度数	割合
① 大学	31	81.6
② 短期大学	7	18.4
③ 高等専門学校	0	0.0
④ その他()	0	0.0
計	38	100.0

その他の記述内容

(2) 所属先の設置者

	度数	割合
① 国(国立大学法人)	3	7.9
② 地方自治体(公立大学法人を含む)	0	0.0
③ 学校法人	35	92.1
④ その他()	0	0.0
計	38	100.0

その他の記述内容

(3) 所属先の所在地

	度数	割合
① 四国	37	97.4
② 北海道	0	0.0
③ 東北	0	0.0
④ 関東	1	2.6
⑤ 中部	0	0.0
⑥ 近畿	0	0.0
⑦ 中国	0	0.0
⑧ 九州・沖縄	0	0.0
計	38	100.0

(4) 職種

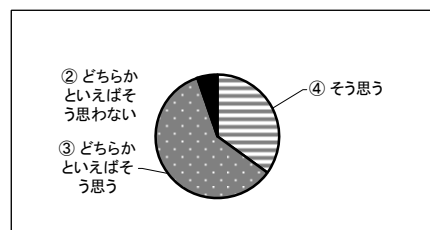
	度数	割合
① 教員	32	84.2
② 職員	6	15.8
③ 学生	0	0.0
④ その他()	0	0.0
計	38	100.0

その他の記述内容

2. このセミナーについて

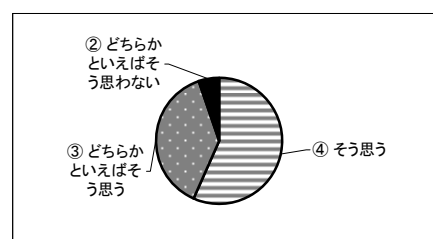
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	13	35.1
③ どちらかといえばそう思う	22	59.5
② どちらかといえばそう思わない	2	5.4
① そう思わない	0	0.0
計	37	100.0



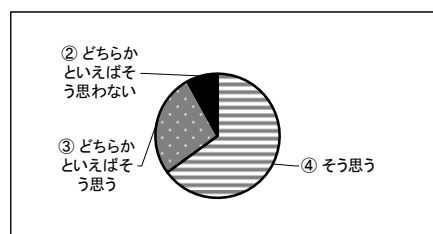
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	21	56.8
③ どちらかといえばそう思う	14	37.8
② どちらかといえばそう思わない	2	5.4
① そう思わない	0	0.0
計	37	100.0



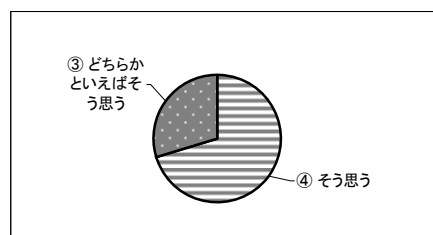
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	24	64.9
③ どちらかといえばそう思う	10	27.0
② どちらかといえばそう思わない	3	8.1
① そう思わない	0	0.0
計	37	100.0



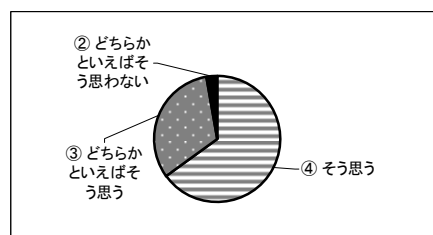
(4) 研修はわかりやすい順序ですすすめられた

	度数	割合
④ そう思う	26	70.3
③ どちらかといえばそう思う	11	29.7
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	37	100.0



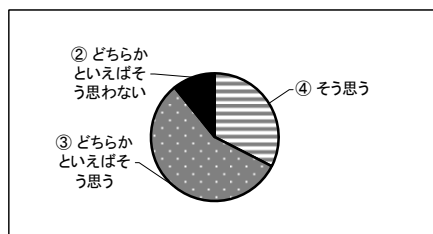
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	24	64.9
③ どちらかといえばそう思う	12	32.4
② どちらかといえばそう思わない	1	2.7
① そう思わない	0	0.0
計	37	100.0



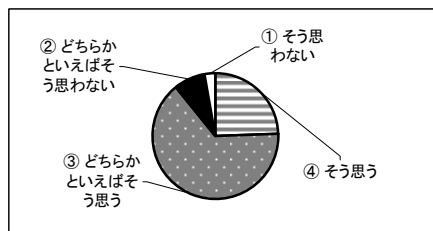
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	12	32.4
③ どちらかといえばそう思う	21	56.8
② どちらかといえばそう思わない	4	10.8
① そう思わない	0	0.0
計	37	100.0



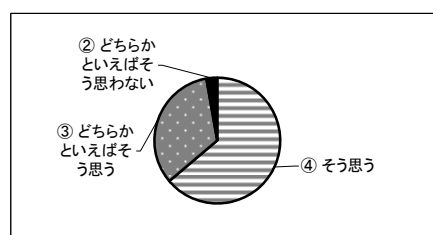
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	9	24.3
③ どちらかといえばそう思う	24	64.9
② どちらかといえばそう思わない	3	8.1
① そう思わない	1	2.7
計	37	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	23	63.9
③ どちらかといえばそう思う	12	33.3
② どちらかといえばそう思わない	1	2.8
① そう思わない	0	0.0
計	36	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- 具体的な内容がわかって参考になりました。
- 学生が知っていることで、学習効果が高まると思われる。これは一種の能力の向上とも感じました。
- 教材がよく講師の話もわかりやすかった。
- 初年次教育の重要性を再確認できた。ノートテイキングの方法がよくわかった。ノートテイキングの必要性を学生にどうアピールするかヒントを得ることができた。
- レポートの書き方について参考になるところがあった。
- 「振り返りシート」等、具体的な学生への配付資料が呈示されていたので、分かりやすかったです。
- これまで主観的、経験的に実施していたノートのとり方や、レポートの書き方が客観的になったように思う。初年次教育の大切さを感じました。
- 大変参考になりました。他の情報整理法やプレゼンテーション等についても受講してみたいと思います。
- 最初の6週間、先輩の活用。先輩のノートを紹介する。
- プリントと講義内容はわかりやすかった。
- 現在、セミナーで卒業論文を指導しています。あらためて、自身の学習にもなり、学生への指導ポイントが明確になりました。
- ノートのとり方、レポートの書き方を例にあげ、具体的に話してくれ今後、学生を指導する際の参考となった。
- わかりやすく初年次教育に大切な基本事項が説明していただき参考になりました。
- 初年次教育が、いかに現代の大学教育に重要かがわかった。他大学でも、感じられる学生の傾向が、私の大学でもあるのだという認識ができた。
- 初年次教育検討の材料が得られた。必要性を感じた。
- 初年次教育の全体像が把握できた。
- 初年次教育の具体的な内容を知ることができた。
- 各大学を遠隔講義システムで結んで行っているの。出張しなくても各大学の状況を生々しく知ることができる。
- 取組む内容・項目が明示されていた。
- 体験に基づいた事例を聞くことができてよかった。
- わざわざ会場へ行かなくても、話を聞くことができた点。
- 初年次教育の必要性、到達目標がより明確になった。
- 学生に伝えるべき基本事項のまとめの資料が手に入った。学生に伝えるべき基本事項とその伝える順序がわかった。
- どの大学も今や大学ではないことがわかり、妙に納得しました。
- 資料が充実していて、とても良かったと思う。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- スクリーン上を指し示す場合に、PCのカーソルを動かしてくれるとありがたいです。サテライト会場の見た目がはじめて体験できて良くわかりました。私は早口なので、注意したいと思いました。電子黒板は使えますか？
- 実体験を研修でも組み入れては？（授業と同じように）
- 時間が長い。
- 学生のノートのとり方を学んで、教員の板書の仕方や、プレゼン、資料提示の仕方にも大きく影響されることがあるように思います。
- 愛媛大学の初年次教育の事例で、どの科目がいくつ開講され、何人の教員を配置しているか、おおまかに示して欲しい。
- generic skillという言葉を使っていた先生がおられたが、この言葉を何の定義もなく使用されていて分かりにくかった。その他英単語を使ってしゃべらないでほしかった。意味がとりづらい。一教員の立場で聴講したが、どちらかというと大学を運営する立場の人の為のご講義内容であったように感じた。教育の潮流を知る上で意義はあったかも知れないが、自分にはカリキュラムを組む権限は全くないから、役に立たない話も多かった。
- 概論的な内容が多かったの、大学の先生になったばかりの方には良いと思うが、中堅～ベテラン向けに、最近の学生の実態に即した具体的な指導事例など知りたかった。
- 時間が長く感じられた。遠隔授業ということなので、設備の問題で部屋がせまかったです。
- より体験型にすると教員の理解が深まると思います。
- 説明のスピードが早いので、各項目に分けて深く説明するのも良いのか。
- 部屋が狭い。資料は配付して欲しい。（今日のように量が多い場合）
- case study、実際の取り組みに基づいた事例報告がもっとあると良い。
- （本プログラムがすでにある程度完成されたものとして提示されているので）学生からのレスポンス、反応についての情報は最小限で良い。
- 本学の教員全員に強制的に聞かせるべきだと思いました。
- 質疑応答の際に、本会場での質問者もマイクを使用して頂けると良いと思います。

平成23年12月9日

関係各位

F D 専門委員会委員長
 大学教育カンファレンス in 徳島 実行委員長
 日 置 善 郎

平成23年度 全学F D 大学教育カンファレンス in 徳島の開催について（ご案内）

平成14年度に開始された徳島大学の全学F D 推進プログラムも今年度は第4期の1年目にあたります。これまでのF D 活動の成果を検証し、F D ネットワークを充実・発展させる機会となるよう、本学や四国の高等教育機関で行なわれている教育実践の先駆的な取り組みを共有し、大学教育の質的向上に向けた努力の成果を確認するための教育カンファレンスを下記のとおり開催します。

つきましては、ご多用中のこととは存じますが、ぜひご参加いただきたくご案内申し上げます。

記

1. 日時：2012年1月6日（金）8：50～18：00

2. 会場：徳島大学大学開放実践センター

3. プログラム（プログラムの詳細は添付をご覧ください）

●開会挨拶（8：50～9：00）

●研究発表Ⅰ

・口頭発表 24 件（9：00～12：10）

・ラウンドテーブルⅠ（10：05～12：10）学生への心理支援の実状と課題

●特別講演（13：10～14：40）

学士課程カリキュラムの開発への視点－目標との整合および学生実態の把握から－
 鳥居朋子 先生（立命館大学教育開発推進機構教授）

●研究発表Ⅱ

・ラウンドテーブルⅡ（14：50～16：50）

授業で工夫していること～学生のやる気を引き出すために～

・ワークショップ（14：50～16：50）

教師のための「教える・学ぶ・ケアする」ワークショップ

・ポスター発表 18 件（17：00～18：00）

※カンファレンス終了後に情報交換会を行います。

4. 参加方法

どなたでもご参加いただけます。当日直接会場へお越しいただき、受付をしてください。
 参加費無料（情報交換会にご出席の方は、会費が3,000円となります。）

5. お問い合わせ先

徳島大学学務部教育支援課総務・企画係

大学教育カンファレンス in 徳島実行委員会事務局（担当：奈良）

電話番号：088-656-9868 メールアドレス：rie-nara@cue.tokushima-u.ac.jp

6. 主催

徳島大学大学教育委員会・F D 専門委員会

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク

平成 23 年度 全学 F D 大学教育カンファレンス in 徳島 プログラム

会期：2012 年 1 月 6 日（金） 会場：徳島大学開放実践センター

8:30～ 8:50	受 付 <大学開放実践センター1 階玄関前>		
8:50～ 9:00	学長挨拶 香川 征 <第 1 講義室> 司会：日置善郎		
9:00～ 10:00	口頭発表 A 座長：前澤博 <第 1 講義室> A① 9:00～9:15 ■知的財産権を活用した自主的創造力創出教育手法の開発 大学院リソグラフィ/ナノエレクトロニクス研究部 出口祥啓 他	口頭発表 B 座長：小山晋之 <第 2 講義室> B① 9:00～9:15 ■モンゴル国における 1st International Student Conference 開催の意義 医学部栄養学科 2 年 原田愛弓 他	
	A② 9:15～9:30 ■長期インターンシップによる大学院生の持続可能な産学連携教育のあり方 創成学習開発センター 森本恵美 他	B② 9:15～9:30 ■総合科学部社会創生学科「文系数学の基礎」の授業開発と実施 大学院リソグラフィ/ナノエレクトロニクス研究部 豊田哲也 他	
	A③ 9:30～9:45 ■第 2 回工学教育に関するアジア会議 (ACEE 2011) を開催して 創成学習開発センター 英崇夫 他	B③ 9:30～9:45 ■キャンパスライフにおける問題点から見える学生支援ー問題の洗い出しから具体的な支援までー 大学開放実践センター 吉田博	
	A④ 9:45～10:00 ■創成学習開発センターの学生による自主創成活動 工学部機械工学科 2 年 田村和大 他	B④ 9:45～10:00 ■大学生による交流型ワークショップの成果と課題ー「キャンパス・ビジョン」の企画・開催を通してー 工学部電気電子工学科 3 年 浦邊研太郎 他	
	休 憩		
10:00～ 10:05	座長：田中秀治 <第 1 講義室> A⑤ 10:05～10:20 ■「教える」ということ、「学ぶ」ということ 第 2 報ー科学イベントで学生 TA が学んだもの・ことー 創成学習開発センター 続木章三 他	座長：伊賀弘起 <第 2 講義室> B⑤ 10:05～10:20 ■大学生が考える在学中になすべき活動ーDEEP PEOPLEの企画から見えてきたものー 総合科学部人間文化学科 1 年 牧迫雄也 他	ラウンドテーブル I 座長：金西計英 <6-201 講義室> 10:05～12:10 ★学生への心理支援の実状と課題

10：05～ 11：05	A⑥ 10：20～10：35 ■地域の科学リテラシー普及を旨として 総合科学部社会創生学科3年 和崎美穂 他	B⑥ 10：20～10：35 ■学生による履修相談の取り組みの成果と課題－行列のできる履修相談－及び抽選漏れのための履修相談じよの実施から－ 総合科学部社会創生学科2年 野勢祐樹 他
	A⑦ 10：35～10：50 ■日亜STC ～この1年の取り組み～ 大学院リソグラフィ/ナノエレクトロニクス研究部 菊池淳 他	B⑦ 10：35～10：50 ■学生による学び支援－lways Cafe－ぶちの企画・開催を通して－ 総合科学部社会創生学科2年 光宗榮 他
	A⑧ 10：50～11：05 ■大学生による小中高生向けロボット教室プロジェクトとその相互評価 工学部機械工学科2年 渡辺照久 他	B⑧ 10：50～11：05 ■徳島大学の学外研修における学び－全国の学生対象ワークショップへの参加を通して－ 工学部電気電子工学科3年 野中亮 他
11：05～ 11：10	休 憩	
	座長：堤和博 ＜第1講義室＞ A⑨ 11：10～11：25 ■参加型臨床実習（クリニカルクラウシクシ）における学生の満足度に関する要因について 医学部教育支援センター 三笠洋明 他	座長：上田哲史 ＜第2講義室＞ B⑨ 11：10～11：25 ■Art and Culture Exchange 学生プロジェクトによる社会貢献と異分野間連携への取り組み 総合科学部科目等履修生 福岡佑子 他
11：10～ 12：10	A⑩ 11：25～11：40 ■養護教諭および歯科衛生士養成における多職種連携教育の試み 大学院ヘルスケア/ナノエレクトロニクス研究部 奥田紀久子 他	B⑩ 11：25～11：40 ■大学における日本語教育①－プロジェクトワーク型日本語教育の効果 国際センター 大石寧子
	A⑪ 11：40～11：55 ■アニメーション作品を取り入れた心理学授業の実践－「移行対象」と「ドラえもん・おばあちゃんの思い出」－ 四国大学生活科学部 下坂剛	B⑪ 11：40～11：55 ■大学における日本語教育②「わかる」ではおられない、「できる」授業へ 国際センター 橋本智
	A⑫ 11：55～12：10 ■卒業生満足度アンケートの解析 徳島文理大学理工学部 小林郁典 他	B⑫ 11：55～12：10 ■基礎科目におけるクリッカーの効果 大学院リソグラフィ/ナノエレクトロニクス研究部 齊藤隆仁
12：10～ 13：10	昼 食 休 憩	

(ラウンドテーブルI)

座長：金西計英

<6-201 講義室>

10：05～12：10

★学生への心理支援の
実状と課題

1. 早期対応のための心理
支援体制

保健管理センター
二宮恒夫

2. 面接実施方法と今後の
課題

学生支援センター学生相談室
山本真由美

3. 健康診断を利用した
学生のメンタルヘル
ス支援

保健管理センター
井崎ゆみ子

13：10～ 14：40	特別講演 司会：川野卓二 <第1講義室> 演題：「学士課程カリキュラムの開発への視点 ー目標との整合および学生実態の把握からー」 講師：鳥居朋子 先生（立命館大学教育開発推進機構教授）	
14：40～ 14：50	休 憩	
14：50～ 16：50	ラウンドテーブルⅡ 座長：日置善郎 <第1講義室> ★授業で工夫していること～学生のやる気を引き出すために～ 鳴門教育大学大学院学校教育研究科 余郷裕次 阿南工業高等専門学校機械工学科 奥本良博 四国大学短期大学部・学修支援センター 谷川裕稔 徳島大学大学院リソ・アーツ・アンド・サイエンス研究部 伏見賢一	ワークショップ 座長：西尾芳文 <授業研究インテリジェントラボ> ◆教師のための「教える・学ぶ・ケアする」ワークショップ 徳島文理大学 牧裕夫 国際センター Gehrtz 三隅友子
16：50～ 17：00	休 憩	
17：00～ 18：00	ポスター発表 座長：香川順子 <1階ロビー> ●高大連携事業「高校生の大学研究室への体験入学型学習プログラム」実施報告（第3報） P① 大学院リソ・アーツ・アンド・サイエンス研究部 渡部稔 他 ●学習支援ボランティアに対する学内支援体制と内容 P② 大学院リソ・アーツ・アンド・サイエンス研究部 山本真由美 ●看護系大学1年生に実施した高齢者ふれあい実習の初年度における効果と課題ー学生の授業評価よりー P③ 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 安原由子 他 ●医療技術系大学生が受講する「ヒューマンコミュニケーション：社会人としてのマナーを学ぶ」の授業方法と課題ー学生の授業評価よりー P④ 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 關戸啓子 他 ●医療職を目指す多専攻の学生が合同で履修する「人間関係論」の課題ー学生の授業評価よりー P⑤ 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 關戸啓子 他 ●グループ・ワーク型授業を活性化させるための取り組みーコックピット・リソース・マネージメントの授業への応用ー P⑥ 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 岩佐幸恵 他 ●医療系学部における多職種連携教育(IPE)の取り組み～蔵本キャンパスすべての1年生による合同ワークショップ～ P⑦ 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 医療教育開発センター 岩田貴 他 ●学外体験学習における教育管理システムの運用とその効果 P⑧ 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 中江弘美 他 ●学生の実習成果向上を目的とした学外実習施設指導薬劑師と徳島大学薬学部実務家教員の連携指導の実施と検証 P⑨ 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 臨床薬学実務教育室 里吉良子 他	

●Faculty センター、Teaching&Learning センターの役割ーブリガム・ヤング大学（プロボ）の場合ー P⑩ 大学開放実践センター 川野卓二	●橋本メソッドを用いた大人数授業での授業デザインについて P⑪ 大学開放実践センター 金西計英 他	●徳島大学のイングリッシュ・サポート・ルームについて P⑫ 全学共通教育センター ギュンター デイルク	●徳島大学のイングリッシュ・サポート・ルームにおける特別プログラム「クリエイティブ・ライティング」の実施とその結果について P⑬ 全学共通教育センター（非常勤講師） 鎌田 スーザン	●徳島大学のイングリッシュ・サポート・ルームにおける特別プログラム「英語の発音」の実施とその結果について P⑭ 全学共通教育センター（非常勤講師） ポンド クリス	●徳島大学のイングリッシュ・サポート・ルームにおける特別プログラム「礼儀正しい英語」の実施とその結果について P⑮ 全学共通教育センター（非常勤講師） バトリック ジェフリー	●4年一貫就業力育成プログラムとそれに基づく初年次キャリア教育の実践ー大学生の就業力育成支援事業採択[自らの就業力向上を促す巣立ちプログラム]ー P⑯ 就職支援センター・キャリア教育推進室 田中徳一 他	●「看護技術」演習をグループで効果的に進めるための取り組み P⑰ 徳島文理大学保健福祉学部看護学科 古川薫 他	●高専におけるティーチング・ポートフォリオの広がり P⑱ 阿南工業高等専門学校 松本高志 他
17：00～ 18：00	情報交換会 <学生会館大集会室>							18：30～ 20：30

平成23年度 全学FD

大学教育カンファレンスin徳島

2012年 **1月6日** **金**

8:50～18:00(8:30 受付開始)

会場 徳島大学大学開放実践センター

主要プログラム（プログラムの詳細は裏面をご覧ください）

■開会挨拶（8:50～9:00）

■研究発表Ⅰ

- 口頭発表 24件（9:00～12:10）
- ラウンドテーブルⅠ（10:05～12:10）
学生への心理支援の実状と課題

■特別講演（13:10～14:40）

学士課程カリキュラムの開発への視点
—目標との整合および学生実態の把握から—

鳥居朋子 先生（立命館大学教育開発推進機構教授）

■研究発表Ⅱ

- ラウンドテーブルⅡ（14:50～16:50）
授業で工夫していること～学生のやる気を引き出すために～
- ワークショップ（14:50～16:50）
教師のための「教える・学ぶ・ケアする」ワークショップ
- ポスター発表 18件（17:00～18:00）

※カンファレンス終了後に情報交換会を行います。

■参加方法

どなたでもご参加いただけます。当日直接会場へお越しいただき、受付をしてください。
参加費無料（情報交換会にご出席の方は、会費が3,000円となります。）

駐車場が限られているため、できるだけ公共交通機関をご利用の上で来場をお願いします。



駅から徒歩約20分。バスは【助任橋】を下車し歩いて約5分。

■お問い合わせ

徳島大学学務部教育支援課総務・企画係
大学教育カンファレンスin徳島実行委員会事務局(担当: 奈良)
〒770-8502 徳島市南常三島町1丁目1番地
【TEL】 088-656-9868
E-mail: rie-nara@cue.tokushima-u.ac.jp
http://www.cue.tokushima-u.ac.jp/fd/

平成十四年度に開始された徳島大学の全学FD推進プログラムも
今年度は第四期の一年目にあたります。これまでのFD活動の成果を検証し、
FDネットワークを充実・発展させる機会となるよう、本学や四国的高等教育機関で行なわ
れている教育実践の先駆的な取り組みを共有し、大学教育の質的向上に向けた

努力の成果を確認するための教育カンファレンスを開催いたします。

皆様の積極的な参加をお待ちしています。

学長挨拶 香川 征		学長挨拶 香川 征	
8:50～9:00	□頭発表A ①知的財産権を活用した自主的創造力創出教育手法の開発 ②長期インターンシップによる大学院生の持続可能な産学連携教育のあり方 ③第2回工学教育に関するアジア会議(ACEE 2011)を開催して ④創成学習開発センターの学生による自主創成活動	□頭発表B ①モンゴ国における1st International Student Conference開催の意義 ②総合科学部社会創生学科「文系数学の基礎」の授業開発と実施 ③キャンパスライフにおける問題点から見える学生支援-問題の洗い出しから具体的な支援まで- ④大学生による交流型ワークショップの成果と課題-「キャンパス・ビジョン」の企画・開催を通して-	□頭発表B ★学生への心理支援の実状と課題 1.早期対応のための心理支援体制 保健管理センター 二宮恒夫 2.面接実方法と今後の課題 学生支援センター-学生相談室 山本真由美 3.健康診断を利用した学生のメンタルヘルス支援 保健管理センター 井崎ゆみ子
9:00～10:00	□頭発表A ⑤「教える」ということ、「学ぶ」ということ第2報 ～科学イベントで学生TAが学んだもの～ ⑥地域の科学リテラシー普及を旨指して	□頭発表B ⑤大学生が考える在学中になすべき活動 ～DEEP PEOPLEの企画から見えてきたもの～ ⑥学生による履修相談の取り組みの成果と課題 ～行列のできる履修相談じょ及び抽選漏れのための履修相談じょの実施から～ ⑦学生による学び支援 ～Ways Café-ぶちの企画・開催を通して～ ⑧徳島大学生の学外研修における学び ～全国の学生対象ワークショップへの参加を通して～ ⑨Art and Culture Exchange 学生プロジェクトによる社会貢献と異分野間連携への取り組み ⑩大学における日本語教育① プロジェクトワーク型日本語教育の効果 ⑪大学における日本語教育② 「わかる」ではおられない、「でざる」授業へ ⑫卒業生満足度アンケートの解析	ラウンドテーブルII 10:05～12:10 ★学生への心理支援の実状と課題 1.早期対応のための心理支援体制 保健管理センター 二宮恒夫 2.面接実方法と今後の課題 学生支援センター-学生相談室 山本真由美 3.健康診断を利用した学生のメンタルヘルス支援 保健管理センター 井崎ゆみ子
10:05～11:05	□頭発表A ⑨参加型臨床実習(クリニカルワークシップ)における学生の満足度に関連する要因について ⑩養護教諭および歯科衛生士養成における多職種連携教育の試み ⑪アニメーション作品を取り入れた心理学授業の実践 ～「移行対象」と「トラえもん・おばあちゃんの思い出」～ ⑫卒業生満足度アンケートの解析	□頭発表B ⑨Art and Culture Exchange 学生プロジェクトによる社会貢献と異分野間連携への取り組み ⑩大学における日本語教育① プロジェクトワーク型日本語教育の効果 ⑪大学における日本語教育② 「わかる」ではおられない、「でざる」授業へ ⑫卒業生満足度アンケートの解析	ラウンドテーブルI 10:05～12:10 ★学生への心理支援の実状と課題 1.早期対応のための心理支援体制 保健管理センター 二宮恒夫 2.面接実方法と今後の課題 学生支援センター-学生相談室 山本真由美 3.健康診断を利用した学生のメンタルヘルス支援 保健管理センター 井崎ゆみ子

13:10～ 14:40	特別講演 演題：「学士課程カリキュラムの開発への視点 ～目標との整合および学生実態の把握から～」 講師：鳥居朋子先生（立命館大学教育開発推進機構教授）	ワークショップ ◆教師のための「教える・学ぶ・ケアする」ワーク ショップ 徳島文理大学 牧裕夫 国際センター Gehrtz三隅友子
14:50～ 16:50	ラウンドテーブルⅡ ★授業で工夫していること～学生のやる気を引 き出すために～ 鳴門教育大学大学院学校教育研究科 余郷裕次 阿南工業高等専門学校機械工学科 奥本良博 四国大学短期大学部・学修支援センター 谷川裕稔 徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス 研究部 伏見賢一	
17:00～ 18:00		ポスター発表 ①高大連携事業「高校生の大学研究室への体験入学型学習プログラム」実施報告（第3報） ②学習支援ボランティアに対する学内支援体制と内容 ③看護系大学1年生に実施した高齢者ふれあい実習の初年度における効果と課題－学生の授業評価より－ ④医療技術系大学生が受講する「ヒューマンコミュニケーション：社会人としてのマナーを学ぶ」の授業方法と課題－学生の授業評価より－ ⑤医療職を目指す多専攻の学生が合同で履修する「人間関係論」の課題－学生の授業評価より－ ⑥グループ・ワーク型授業を活性化させるための取り組み－コックピット・リソース・マネジメントの授業への応用－ ⑦医療系学部における多職種連携教育（IPE）の取り組み～蔵本キャンパスすべての1年生による合同ワークショップ～ ⑧学外体験学習における教育管理システムの運用とその効果 ⑨学生の実習成果向上を目的とした学外実習施設指導薬剤師と徳島大学薬学部実務家教員の連携指導の実施と検証 ⑩Facultyセンター、Teaching&Learningセンターの役割－ブリガム・ヤング大学（プロボ）の場合－ ⑪橋本メソッドを用いた大人数授業での授業デザインについて ⑫徳島大学のイングリッシュ・サポート・ルームについて ⑬徳島大学のイングリッシュ・サポート・ルームにおける特別プログラム「クリエイティブ・ライティング」の実施とその結果について ⑭徳島大学のイングリッシュ・サポート・ルームにおける特別プログラム「英語の発音」の実施とその結果について ⑮徳島大学のイングリッシュ・サポート・ルームにおける特別プログラム「礼儀正しい英語」の実施とその結果について ⑯4年一貫就業力育成プログラムとそれに基づく初年次キャリア教育の実践－大学生の就業力育成支援事業採択[自らの就業力向上を促す単立ちプログラム]－ ⑰「看護技術」演習をグループで効果的に進めるための取り組み ⑱高専におけるティーチング・ポートフォリオの広がり
	18:30～20:30	情報交換会

平成23年度 全学FD 大学教育カンファレンス in 徳島
ラウンドテーブルⅠのご案内



学生への心理支援の実状と課題

日時：2012年1月6日（金）10:05～12:10

会場：徳島大学共通教育棟6号館 201講義室（大学開放実践センター2階）

■趣旨

本ラウンドテーブルは、徳島大学パイロット事業支援プログラム（教育改革支援事業）「大学生の精神的不適応感改善のための支援体制の構築」の一環として、悩みを抱える学生を早期に把握し、適切な心理支援を行う体制を構築することを目的としています。

蔵本地区、常三島地区で平成23年7月と10月にそれぞれ2回ずつ、心理支援体制の目的と方法について説明会を実施してきました。

その中で、各学部で学生への対応方法、担当が担当する学生の人数も異なることなどが明らかになりました。そこで、心理支援体制についてどのような方法が可能なのかを検討する会にしたいと思います。皆様の積極的な参加をお待ちしております。

■プログラム（予定）

10:05～10:15 挨拶・趣旨説明

10:15～10:35

「早期対応のための心理支援体制」 保健管理センター 二宮恒夫

10:35～10:55

「面接実施方法と今後の課題」 学生支援センター学生相談室 山本真由美

10:55～11:15

「健康診断を利用した学生のメンタル支援」 保健管理センター 井崎ゆみ子

11:15～12:10 話題提供内容に基づき、フロアとの質疑応答

■参加方法

対象者：どなたでもご参加いただけます。（特に徳島大学学生相談員、教務委員会委員、学生委員会委員の参加をお待ちしています。）

参加申込：当日直接会場へお越しいただき、受付をしてください。

参加費：無料

■お問い合わせ先

徳島大学学務部教育支援課総務・企画係

大学教育カンファレンス in 徳島実行委員会事務局（担当：奈良）

住所：〒770-8502 徳島市常三島町1丁目1番地

電話番号：088-656-9868

メールアドレス：rie-nara@cue.tokushima-u.ac.jp

主催 徳島大学 大学教育委員会・FD専門委員会
四国地区大学教職員能力開発ネットワーク

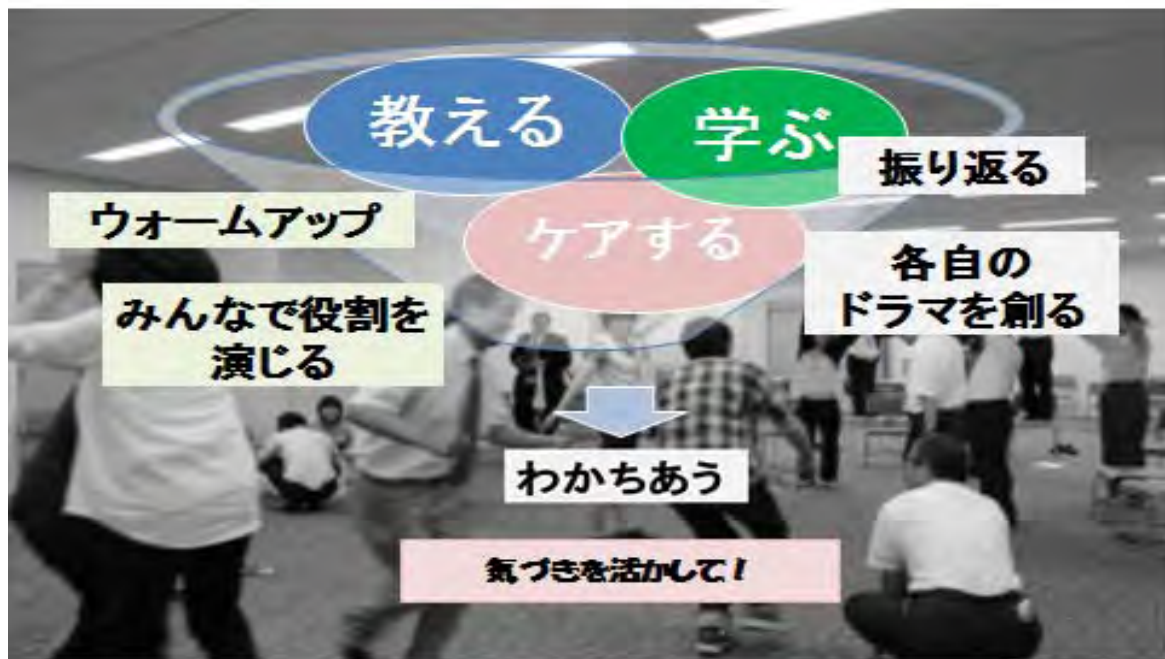
平成23年度 全学FD 大学教育カンファレンス in 徳島
ワークショップのご案内

教師のための「教える・学ぶ・ケアする」 ワークショップ

日 時：2012年1月6日（金）14:50～16:50

会 場：徳島大学共通教育棟6号館 授業研究インテリジェントホム（大学開放実践センター3階）

担当者：牧 裕夫（徳島文理大学）Gehrtz 三隅友子（徳島大学国際センター）



先生方一人ひとりの専門性の高さと共に先生方同士が
様々なチャンネルで繋がっていることも、学生、さらには大学全体の創造空間の礎となるでしょう。
新年を迎えた松の内！お正月気分でお互いの様々なチャンネルを楽しめる会にしましょう。
自由に動ける楽な服装でどうぞご参加ください！

＜ワークショップの内容に関するお問い合わせ＞

担当者の三隅までご連絡ください。電話：088-656-7120 内線 6214
e-mail: misumi@isc.tokushima-u.ac.jp



＜ワークショップ申し込み方法＞

対 象 者：教師のためとありますが、人とつながることを体感したい方はどなたでも。
人 数：15名（先着順です）
参 加 費：無料
申込締切：2011年12月26日（月）
申 込 先：徳島大学学務部教育支援課総務・企画係（担当：奈良）
電話 088-656-9868（内線）7000 e-mail: rie-nara@cue.tokushima-u.ac.jp
メールに、氏名・年齢・ご所属・ご連絡先をお書きの上お申込みください。

主催 徳島大学 大学教育委員会・FD専門委員会
四国地区大学教職員能力開発ネットワーク

講師養成研修「プレゼンテーション入門（大学人，社会人としての
基礎力養成プログラム研修（レベルⅠ）」 実施要項

1. 目 的

S P O D－S D講師を務める際に必要なスキルを、外部講師が研修時に使用するテキストに沿って学び、習得することを目的とする。

2. 内 容

大学人，社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルⅠ）のうち，プレゼンテーション入門の研修科目に特化して実施する。

3. 対象者

平成22年・平成23年度講師養成研修を受講したS P O D加盟校の職員，および，次世代リーダー養成研修の修了予定者（1期生）

4. 日 時

平成24年2月3日（金）9：00～17：00

5. 場 所

愛媛大学本部4階 第4会議室

6. 旅 費

愛媛大学の旅費規則に準じて支給します。

7. 担当講師

株式会社インソース 講師

8. 受講定員

10名

9. 修了証書

本研修を修了した者には修了証書を交付する

10. 主 催

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（S P O D），愛媛大学

講師養成研修「プレゼンテーション入門」 日程表

研修会場：愛媛大学本部第4会議室

	8:40	9:00	9:15	12:00
2月3日 (金) 午前	受付	オリエンテーション	1. 「よい研修」の条件を考える <グループワーク> 受講者として、受けたくない研修・受けたくない研修の特徴は何か？ 2. 講師に求められる2つの要素 <講義> ■よい研修を行うために、講師に求められる2つのスキル ①インストラクションスキル ②コミュニケーションスキル 3. インストラクションスキルを習得する <講義／個人・グループワーク> ■テキスト大項目1～2, 3, 4を3つのパートに分割し以下のステップで習得 【ステップ1】外部講師による重要項目のインストラクション手本を観察 【ステップ2】インストラクションガイドを使い各項目のポイント解説 【ステップ3】自分自身の経験談・具体例を洗い出す ※上記3ステップをテキスト大項目1～2, 3, 4で繰り返し行う	12:00
2月3日 (金) 午後		休憩	4. 講師に必要なコミュニケーションスキルを習得する <講義> ■講師として人前で話す力、研修の進め方を講義 (1) 分かりやすい話し方の条件 (2) 内容を考える (3) 姿勢・態度・表情 (4) 声について (5) 間のとり方 (6) 分かりやすい話をするための構成方法 (7) 板書の仕方、指す、指名する (8) 演習の種類と進め方 (9) フィードバックのポイント 5. 総合演習 <ロールプレイ／グループワーク> ■テキスト、インストラクションガイドを使用しロールプレイング実施 インストラクションガイドを基にペアでロールプレイ 講師、受講者同士でのフィードバック 6. まとめ	17:00

※研修スケジュールは、進行によって変更する場合があります。

平成23年度 学務系職員養成プログラム研修アンケート集計結果

研修名:学務系職員養成プログラム研修

講師名:渡邊春重・米澤慎二・野本ひさ・谷中恭伸・西尾澄気・長野佑治・岡靖子(愛媛大学)

実施日:平成23年9月7日(水)～8日(木)

実施会場:愛媛大学本部第2会議室

アンケート回答者数:53名

1. 参加者ご自身について
職種

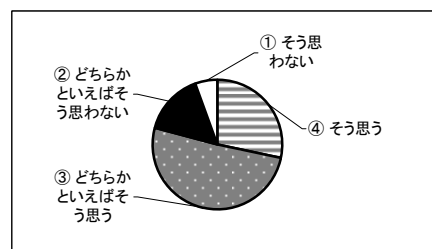
	度数	割合
① 教員	0	0.0
② 職員	53	100.0
③ 学生	0	0.0
④ その他()	0	0.0
計	53	100.0

その他の記述内容

2. この研修について

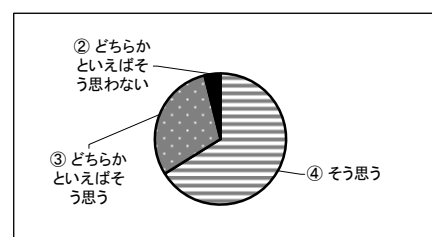
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	15	28.3
③ どちらかといえばそう思う	27	50.9
② どちらかといえばそう思わない	8	15.1
① そう思わない	3	5.7
計	53	100.0



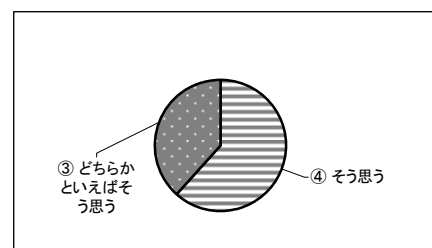
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	35	66.0
③ どちらかといえばそう思う	16	30.2
② どちらかといえばそう思わない	2	3.8
① そう思わない	0	0.0
計	53	100.0



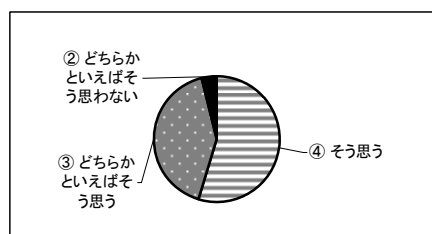
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	32	61.5
③ どちらかといえばそう思う	20	38.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	52	100.0



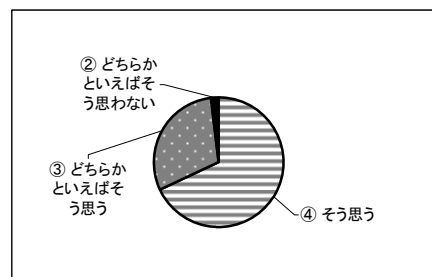
(4) 研修はわかりやすい順序ですすすめられた

	度数	割合
④ そう思う	29	54.7
③ どちらかといえばそう思う	22	41.5
② どちらかといえばそう思わない	2	3.8
① そう思わない	0	0.0
計	53	100.0



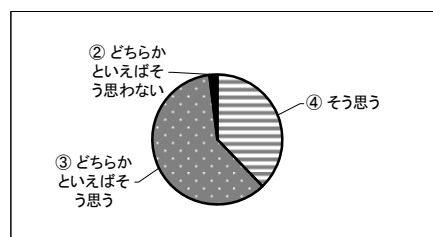
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	36	67.9
③ どちらかといえばそう思う	16	30.2
② どちらかといえばそう思わない	1	1.9
① そう思わない	0	0.0
計	53	100.0



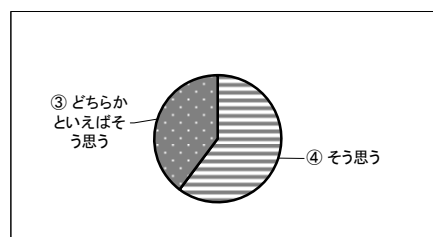
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	20	37.7
③ どちらかといえばそう思う	32	60.4
② どちらかといえばそう思わない	1	1.9
① そう思わない	0	0.0
計	53	100.0



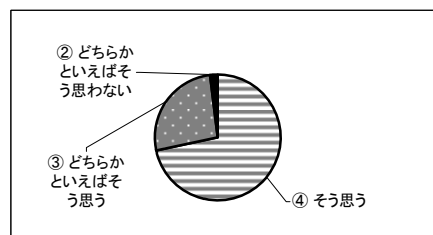
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	32	60.4
③ どちらかといえばそう思う	21	39.6
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	53	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	38	71.7
③ どちらかといえばそう思う	14	26.4
② どちらかといえばそう思わない	1	1.9
① そう思わない	0	0.0
計	53	100.0



3. このセミナーを受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- 漠然と考えていたことが、各項目毎にかなり明確になった。
- 今後、何を学ぶべきかの指針を得た。
- 学生から見られているという意識をもち、初心を忘れずスキルを身につけながらという意識を持てる機会になった。
- いろんな視点で物事を捉えて、相手を知ることから始めることが大事だと感じた。
- グループワークが充実していて、自分の考えを発言したり、人の考えを聞いたりする中で、また自分の考えが整理できた。
- これまで漠然としていた、自分に足りない点についても、例えば危機管理マニュアルをしっかり読んで、というように具体的にやらなければいけないことが、少し見えてきた。
- 野本先生のお話は、もっと聞きたい！！と思うことばかりでした。
- 幅広い内容を受講でき、普段やったことのない分野についても学べたことがよかったです。
- 今後、自分でも取り入れられることは実践したいし、他の係と連携する際にも役に立つと思います。
- 本学以外の大学職員との交流があり、他大学や他校の情報を得たこと。
- 自分だけでなく、他の人も同じ経験や悩みを持っていることがわかった。モヤモヤしていた学生対応が、自分の中でスッキリ整理できたと思う。
- 講習内容が具体的でわかりやすかった。ワークが適度に入り、取り組み易かった。
- 普段、この研修のド真ん中に業務を行っていることもあり、今までの私の仕事ぶりはどうだったのか、振り返りながら進めることができました。
- 講義が皆さんユニークで楽しかったです。
- 講義内容だけでなく、プレゼンの方法等としても勉強になりました。
- 学生支援とは？具体的にどのような支援か、思いつかなかったが、日常業務の中で、丁寧に対応することも支援の一つと思いついたこと。職業人としてすべき事を気付かせてくれた。
- 人脈ができた。リフレッシュタイムがあるので、メリハリができた。
- 他校の職員と交流することができたこと。
- 現在、学務系の業務を担当しているけれど、普段、担当していない業務に就いても知ることができたので良かった。他の大学の方と接すること出様々な話しを聞くことができたし、自分の今までの対応等を見直す事ができたと思う。
- 学務系に所属していたが、奨学金については無知だった為、業務の流れや計算方法がわかって良かったです。
- 奨学金やキャリア支援など、今まで全く知らなかった事の一部を知ることができ、今の業務で学生の背景を知るきっかけ及び大学の機能を理解する動機となったように感じます。愛媛大学の皆さん、スタッフの皆様、大変お世話になりました。ありがとうございました。
- 野本先生のくらげちゃんの話が印象的でした。
- 具体例を踏まえて必要な知識、手順を体系立てて教えていただき、大変勉強になりました。
- また、講師の方々の知識、経験、熱意を目の当たりにして、自らの未熟さを痛感すると共に、もっと勉強し業務の質を高めていかなければならないと強く思いました。
- 人脈ができた。
- 自分の担当業務以外の業務を非常に分かりやすく習うことができた。
- 未知＝大学生→少し分かったこと。
- 全ての講習が業務に直結するもので、役に立った。学生対応など、忙しい事を理由に反応が遅れてしまう事がある。改めて気を引き締める。
- 自分自身の学生への対応を振り返る事ができて、改善すべき点や、心がけないといけない点が分かった

(特に「伝えて」「受け取る」こと)。また、これまで知らなかった事(他の係での担当)を学ぶことができた。

- グループワークで他の人の考えや体験を聞くことができた。
- 日々の業務の中では得られることのできないことを知ることができた。
- グループワークが充実していた。
- 直接、自分の業務に生かせる内容の講習ばかりだったので、すぐにでも取り入れていきたいと思った。
- また同じ世代の方と交流する機会にも恵まれ、今後の業務が充実するのではないかと期待できた。
- 学生支援ということを様々な視点から見ることでよかった。今後の学生対応に活かせると思う。
- 自分に必要な知識をもっと身につけるように努力しようと思った。就学の手引き等、身近なところから熟読しようと思う。
- 班単位の活動で、参加型であったところ。
- 日常の業務に則した内容だったので、本務校での通常業務で即実行できる内容が多かった。
- 分野ごとに内容の深い説明を受けることができ、大変勉強になりました。実務の例などが多く、即使用できる内容が良かったです。
- 自分が担当している分野だけでなく、幅広く活用できる実践的な内容だった。
- 学生との対応の仕方をいろいろと考えられたのが良かった。
- 他の大学の方とワークができて良かった。
- 具体的な事例をもとに話されていたので、分かりやすかった。
- 学生への対応など、学生に対するいろいろなことを詳しく知れて良かった。
- 学生に対応する際の心構えを改めて見つめ直す良い機会になった。
- グループワークが、たくさんあって、身についたと思う。また、やったことのない業務にも興味が出るような内容で、現在の業務以外の学生生活支援する業務に意欲がわいた。
- 事例がたくさんあったので、現実味がありました。
- SPODの学生対応のDVD(?)が面白かったです。
- 今まで何となく自己流で行っていた学生対応を体系的に学ぶことができて良かった。特に今の若者の全体的な傾向とその対応がつかめたと思う。
- 明日からでも、学んだことを実行します。「最初と最後の対応が大切」
- グループワークを多く行うことで、受講者が積極的に研修に参加することができた。
- 現在担当している業務については、更に見聞を広めることができましたし、担当していない業務についても多くの知識を得ることができました。また、他大学等の職員の方の考えも多く聞けて非常にいい経験になりました。
- どの講義もグループワークがあり、一方的に講義を聴くだけでなかったのも、とても時間が経つのが早く感じた。またグループワークを通して、意識を持つことができた。「学生のために」仕事をするということを改めて再確認できた。
- 普段、同じ課内、フロア内で仕事をしていても、自分の担当内容以外は知らないことが多いので、学生支援のあらゆる内容を知れて良かった。学生対応等、学生との関わり方はとても参考になりました。日々の業務にいかしていきたいと思います。
- 他大学で働く職員とワークを通じて情報を共有し、また、刺激を受けることができた。
- ワークの内容がバラエティに富み、分かりやすかったのも、飽きることなく受講できた。
- キャリア支援の中で、職員はロールモデルであるということを教えていただいて、自分の行いを少し考え直すそうと思いました。また、危機管理についても、勉強不足であることを認識できました。
- バランスの取れた内容で良かったと思う。
- グループワークで意見交換等できて良かった。
- 途中でワークが挟まったので、時間としては長い方だったけれど、頭の「だれ」を防止しながらうまく受講できたと思う。
- お茶やおやつがあったのは、小休止(ブレイク)に良かったです。

4. このセミナーをよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- 会場案内の地図にもう一工夫(近くの日印や道路の右側左側等の指示)ほしい。
- 今後もよりよいものになるよう、少しでも多くの方に参加いただけるよう祈っております。
- せっかく多くの大学の方が集まっているので、もう少し席替えがあってもいいかと思った。
- 少し内容を詰め込みすぎている所があるように思いました。情報量が多くなると、学生もそうですが、理解が難しくなることもあるので。
- 難しいかもしれませんが、学会等の日程とはかぶらないようにしてほしいです。宿泊先が確保できません。
- 土木学会と日程が重なったため、宿や朝の交通の混雑がありましたが、セミナー自体は大変有意義で出席できて本当に良かったと思いました。皆様、本当にありがとうございました。
- 学生対応について、10%の多様な学生と80%の普通の学生があり、その支援の量については、変わっていくとの事だったが、支援の量が違うことが、言ったもん勝ち、のようにならないようにするためにはどうしたらよいのかなーということと、学生の成長のために支援し過ぎるのもだめだと思うので、その境目が難しいと感じました。
- 時間的に難しいと思うのですが、全てのグループが毎日プレゼンするようにしたら、人に伝える力がアップするのではと思います。
- 業務が似ている参加者が同じ班になれると情報の提供、共有等し易いと思った。
- 危機管理のグループワークは、少し意味が分からなかった。
- ワークが多いのが特徴だと思いますが、若干意見を出しづらい設問がありました。
- 危機管理のワークが何をすべきかが少し分かりました。
- 役割分担は、席位置で指名していただいた方がスムーズに進むかもしれません。
- グループワークを午前-午後で別のグループにすればよいと思います。
- 昼食の案内の地図がとても分かりづらかった。もう少し、詳しいものがほしい。

平成23年度 SPOD学務系職員養成プログラムアンケート集計結果

研修名:T-005 学務系職員養成プログラム(レベルI-2)

講師名:和田眞、吉田博、馬場祐次郎、竹島隆文、宮田政徳、坂東健一、木之下英二(徳島大学)

実施日:平成23年11月17日(木)~18日(金)

実施会場:徳島大学

当日参加者数:29名

アンケート回答者数:29名

1. 参加者ご自身について

(1) 所属先

	度数	割合
① 4年制大学	27	93.1
② 短期大学	0	0.0
③ 高等専門学校	2	6.9
④ その他()	0	0.0
計	29	100.0

その他の記述内容

(2) 所属先の設置者

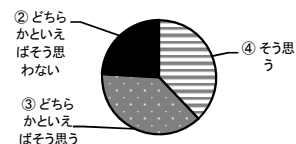
	度数	割合
① 国(国立大学法人)	19	65.5
② 地方自治体(公立大学法人を含む)	3	10.3
③ 学校法人	7	24.1
④ その他()	0	0.0
計	29	100.0

その他の記述内容

2. 研修参加への経緯について

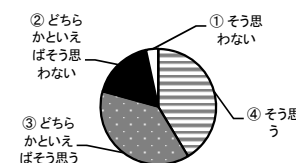
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	11	37.9
③ どちらかといえばそう思う	11	37.9
② どちらかといえばそう思わない	7	24.1
① そう思わない	0	0.0
計	29	100.0



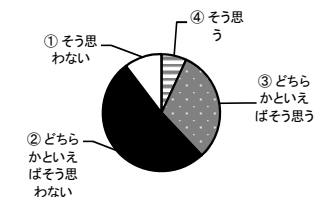
(2) 自分自身で能力開発の必要性を感じて参加した

	度数	割合
④ そう思う	12	41.4
③ どちらかといえばそう思う	11	37.9
② どちらかといえばそう思わない	5	17.2
① そう思わない	1	3.4
計	29	100.0



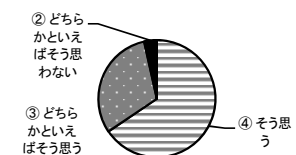
(3) 研修内容をすぐに活用しなければならない状況で参加した

	度数	割合
④ そう思う	2	6.9
③ どちらかといえばそう思う	9	31.0
② どちらかといえばそう思わない	15	51.7
① そう思わない	3	10.3
計	29	100.0



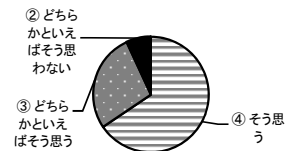
(4) 上司はこの研修への参加を肯定的に捉えている

	度数	割合
④ そう思う	19	65.5
③ どちらかといえばそう思う	9	31.0
② どちらかといえばそう思わない	1	3.4
① そう思わない	0	0.0
計	29	100.0



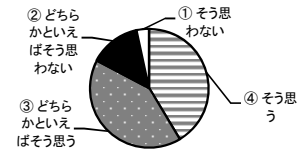
3. 研修プログラムの設計について
(1) 研修の目的は明確に設定されていた

	度数	割合
④ そう思う	19	65.5
③ どちらかといえばそう思う	8	27.6
② どちらかといえばそう思わない	2	6.9
① そう思わない	0	0.0
計	29	100.0



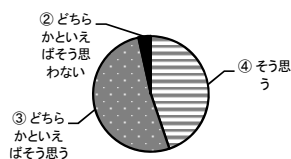
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	12	41.4
③ どちらかといえばそう思う	12	41.4
② どちらかといえばそう思わない	4	13.8
① そう思わない	1	3.4
計	29	100.0



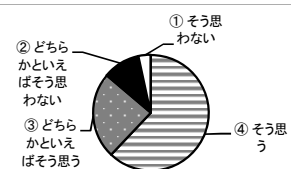
(3) 研修はわかりやすい順序ですすめられた

	度数	割合
④ そう思う	13	44.8
③ どちらかといえばそう思う	15	51.7
② どちらかといえばそう思わない	1	3.4
① そう思わない	0	0.0
計	29	100.0



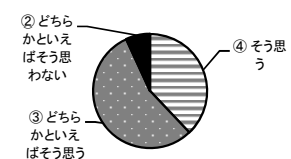
(4) 研修会場は快適な環境だった

	度数	割合
④ そう思う	18	62.1
③ どちらかといえばそう思う	7	24.1
② どちらかといえばそう思わない	3	10.3
① そう思わない	1	3.4
計	29	100.0



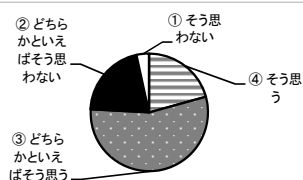
(5) 研修内容は丁度良いレベルに設定されていた

	度数	割合
④ そう思う	11	37.9
③ どちらかといえばそう思う	16	55.2
② どちらかといえばそう思わない	2	6.9
① そう思わない	0	0.0
計	29	100.0



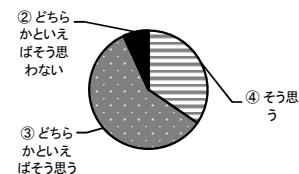
(6) 研修時間は研修目的を達成するために丁度よい長さだった

	度数	割合
④ そう思う	6	20.7
③ どちらかといえばそう思う	16	55.2
② どちらかといえばそう思わない	6	20.7
① そう思わない	1	3.4
計	29	100.0



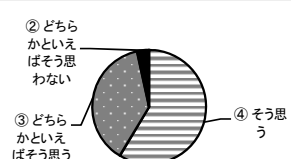
(7) 研修の実施時期は適当だった

	度数	割合
④ そう思う	10	34.5
③ どちらかといえばそう思う	17	58.6
② どちらかといえばそう思わない	2	6.9
① そう思わない	0	0.0
計	29	100.0



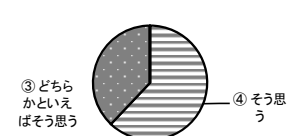
(8) 研修会場には十分な設備が整っていた

	度数	割合
④ そう思う	17	58.6
③ どちらかといえばそう思う	11	37.9
② どちらかといえばそう思わない	1	3.4
① そう思わない	0	0.0
計	29	100.0



(9) 参加者の人数は適当だった

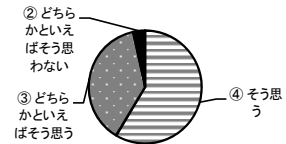
	度数	割合
④ そう思う	18	62.1
③ どちらかといえばそう思う	11	37.9
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	29	100.0



4. 研修スタッフについて

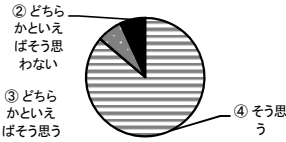
(1) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	17	58.6
③ どちらかといえばそう思う	11	37.9
② どちらかといえばそう思わない	1	3.4
① そう思わない	0	0.0
計	29	100.0



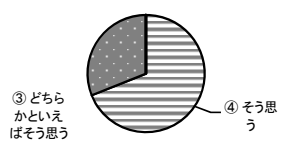
(2) 事務局は手際よく研修を運営していた

	度数	割合
④ そう思う	25	86.2
③ どちらかといえばそう思う	2	6.9
② どちらかといえばそう思わない	2	6.9
① そう思わない	0	0.0
計	29	100.0



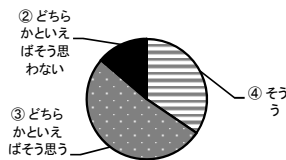
(3) 講師は研修に必要な知識を十分に持っていた

	度数	割合
④ そう思う	20	69.0
③ どちらかといえばそう思う	9	31.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	29	100.0



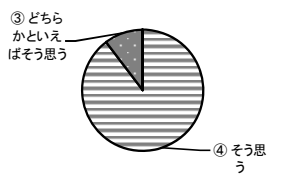
(4) 講師の用意した教材はわかりやすかった

	度数	割合
④ そう思う	10	34.5
③ どちらかといえばそう思う	15	51.7
② どちらかといえばそう思わない	4	13.8
① そう思わない	0	0.0
計	29	100.0



(5) 事務局の対応は丁寧だった

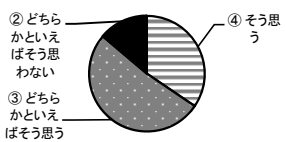
	度数	割合
④ そう思う	26	89.7
③ どちらかといえばそう思う	3	10.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	29	100.0



5. 研修成果について

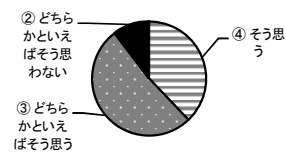
(1) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	10	34.5
③ どちらかといえばそう思う	15	51.7
② どちらかといえばそう思わない	4	13.8
① そう思わない	0	0.0
計	29	100.0



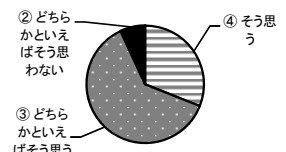
(2) 受講したことによって業務の取り組み方が改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	11	37.9
③ どちらかといえばそう思う	15	51.7
② どちらかといえばそう思わない	3	10.3
① そう思わない	0	0.0
計	29	100.0



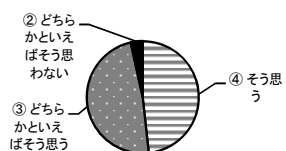
(3) 研修の内容は十分に理解できた

	度数	割合
④ そう思う	9	31.0
③ どちらかといえばそう思う	18	62.1
② どちらかといえばそう思わない	2	6.9
① そう思わない	0	0.0
計	29	100.0



(4) 新たに人的なつながりをつくることができた

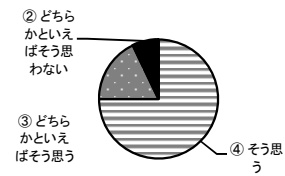
	度数	割合
④ そう思う	14	48.3
③ どちらかといえばそう思う	14	48.3
② どちらかといえばそう思わない	1	3.4
① そう思わない	0	0.0
計	29	100.0



6. 研修全体について

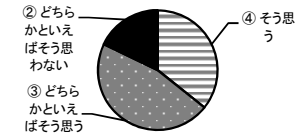
(1) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	21	75.0
③ どちらかといえばそう思う	5	17.9
② どちらかといえばそう思わない	2	7.1
① そう思わない	0	0.0
計	28	100.0



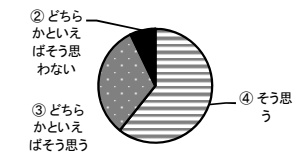
(2) 研修は期待を上回る内容だった

	度数	割合
④ そう思う	10	35.7
③ どちらかといえばそう思う	13	46.4
② どちらかといえばそう思わない	5	17.9
① そう思わない	0	0.0
計	28	100.0



(3) 今後もこの研修を継続していくべきだと思う

	度数	割合
④ そう思う	17	60.7
③ どちらかといえばそう思う	9	32.1
② どちらかといえばそう思わない	2	7.1
① そう思わない	0	0.0
計	28	100.0



7. SPODIにおけるSDプログラム開発について

	度数	割合
地域連携系	13	44.8
社会連携系	12	41.4
国際交流系	14	48.3
総務係	6	20.7
財務系	3	10.3
施設系	1	3.4
図書係	1	3.4
情報処理系	6	20.7
医事系	2	6.9
その他	2	6.9

※設問7の“割合”は、回答者29名を分母として算出した。

特定非営利活動法人南大阪地域大学コンソーシアムの概要

I プロフィール

設
目

立：平成14年7月28日

的：①地域の学術機能の向上②産官学連携の推進

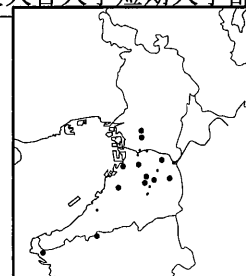
南大阪地域の大学が、それぞれの特性を活かしながら相互の連携をさらに深め、地域社会や産業界と協力しあって、多様なニーズに対応し、教育・学術研究機能の向上を図るとともに、その成果を社会に還元し、地域の発展に貢献することを目的としている。

加盟団体数：大学9、短期大学4、専門学校1、個人会員20

大学		短期大学	
大阪府立大学	羽衣国際大学	プール学院大学	プール学院大学短期大学部
和歌山大学	大阪大谷大学	帝塚山学院大学	大阪夕陽丘学園短期大学
桃山学院大学	大阪芸術大学	近畿大学生物理工学部	大阪女子短期大学
		清風情報工科学院	大阪大谷大学短期大学部

役
員：理事長 奥野武俊（大阪府立大学学長・理事長）
副理事長 明石吉三（桃山学院大学学長）
副理事長 笠井高芳（大阪大谷大学学長）
理事 会員大学の学長9名 監事2名

事務局長：寺迫正廣（大阪府立大学副学長・理事）



II 主な事業

各種委員会	内容	成果（H22年度実績）
大学連携教育プログラム委員会	単位互換提供科目	【参加大学数】 15 大学 【互換科目数】 183 講座 【参加学生数】 58 名
	センター科目 “こんな関空欲しかってん！”	【参加大学数】 6 大学 【参加学生数】 55 名
大学企業共同プログラム委員会	外部からの受託事業 （学生クラブ・アクト含む）	【受託総数】 13 件
インターンシップ委員会	インターンシップの実施	【参加大学数】 10 大学 【参加学生数】 61 名 【参加企業数】 16 社 【参加自治体】 9 団体
南大阪地域講座	南大阪地域講座の実施	【開講講座数】 2 講座 【参加者数】 30 名
情報交流・発信委員会	国際映画ショートムービー映画祭 in 関空	【応募総数】 約 70 件
	南大阪の歩き方	【参加大学】 2 大学

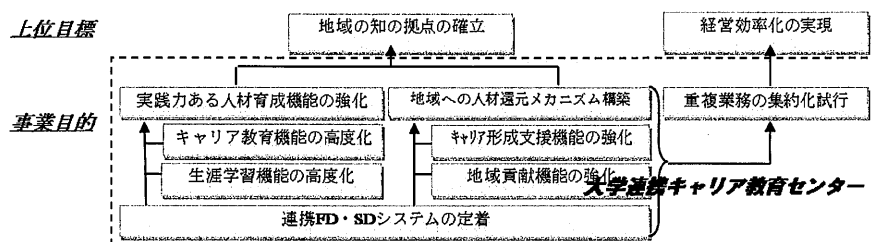
Ⅲ 特色のある事業紹介

1. 文部科学省 戦略的大学連携支援事業

「実践力ある地域人材の輩出～大学連携キャリア教育センターを核にして～」

【事業目的】

連携 6 大学（大阪府立大学、大阪大谷大学、帝塚山学院大学、羽衣国際大学、桃山学院大学）が位置する南大阪地域における知の拠点確立と連携 6 大学の重複する業務を集約することを通じた経営の効率化の実現を上位目標に、実践力ある人材育成の拡大と、育った人材を地域に還元する仕組み構築する。10 年後において、南大阪キャンパス構想の実現を目指している。それは、センター、単位互換、e ラーニング、FD・SD、地域連携等の連携事業を推進させ、各大学がそれぞれ機能を連携分担しながら、大学の特色を生かした教育効果の向上と経営効率化・合理化を実現させることである。



【概要】

事業は、①キャリア教育・FD 事業、②キャリア形成支援事業、③生涯学習事業、④SD 事業の 4 本の柱から成り立つ。

①キャリア教育・FD 事業

- ・各大学において PP I 講座、PP II 講座の実施。共同 FD 研修の実施。

②キャリア形成支援事業

- ・大学連携キャリア教育センターC-Campus の設置。
- ・仕事塾、生き方塾、コミュニケーション就活塾等の開講。

③生涯学習事業

- ・実践力育成講座（人材育成講座、専門・教養講座）の開講。

④SD 事業

- ・共同 SD セミナー、合同 SD 改善提案の実施。

2. リンカーン・プロジェクト（H21 年度）

【事業目的】

中小企業の魅力を発信し、学生が中小企業を就職先としてみるができるようにする。全国初の就職活動の形を発信する。

【概要】

学生が企業にヒアリングに行き、それらの内容をもとにして、以下のことを行う。以下の内容は、すべて学生の企画・運営・実施によって実現する。

- (1) 企業ヒアリング
- (2) 企業求人情報雑誌作成（全国初）
- (3) 学生が企業説明を行う合同説明会の開催（全国初）

【成果】

① 学生の参加

14 大学 54 名（会員大学：大阪芸術大学、大阪府立大学、桃山学院大学、和歌山大学、

会員外大学：大阪市立大学、近畿大学、大阪大学、関西大学、大阪経済法科大学、大阪商業大学、大阪産業大学、大阪経済大学、関西学院大学、同志社大学）

② 企業の参加

39 社（大阪労働協会（JOB カフェ OSAKA）、大阪信用金庫から推薦を受けた企業）

3. 単位互換（センター科目含む）

【事業目的】

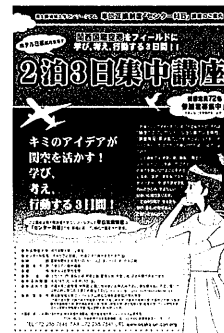
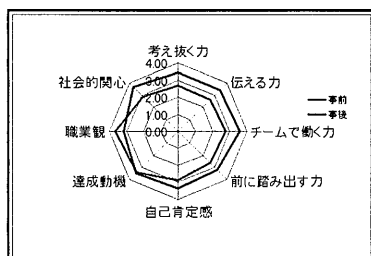
多様な学修目的を持った学生に多様な学びの場を提供する。

【概要】

会員大学が提供する講座科目について、単位互換を実施し、会員大学に在籍する学生であれば履修可能となっている。中でも、センター科目「キャリアと社会」（羽衣国際大学単位互換提供科目：通称、関空合宿）は本コンソーシアムの目玉事業の一つであり、毎年60名～80名の学生が参加する。また、本コンソーシアムはネットワーク中国と協定を結んでおり、中国地方に所在する大学生も単位互換センター科目に毎年5名程度参加している。プログラムの中で学生たちは、関空からミッションが与えられ、2泊3日と限られた時間の中で、課題を解決していく。

【成果】

- ・単位互換科目全体
15大学、183講座、58名の大学生が参加
 - ・センター科目「キャリアと社会」
9大学、55名の大学生が参加
- 「人間基礎力」指標にもとづく、効果測定結果



4. キャリア教育推進事業

【事業目的】

初等中等教育段階から高等教育段階への円滑な移行を目指して、地域の小学校から高等学校に至るまで、キャリア教育を推進している。数あるキャリア教育の要求の中で、キャリア教育の目的を「人間基礎力」の育成に定め、とくに「思考リテラシー」の獲得を目標に置いている。「思考リテラシー」の獲得とは、PDCA サイクルを自分の力で回すことができることを意味している。

【概要】

①キャリア教育の実施

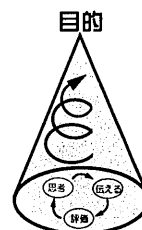
平成17年度経済産業省「地域自律・民間活用型キャリア教育プロジェクト」において学校と企業を結ぶキャリア教育コーディネート団体に採択を受けたことに始まり、平成20年度からは堺市「地域連携型キャリア教育プログラム」実施団体に選定を受ける。「思考リテラシー」の獲得のために、地元産業（例、シマノ）をテーマに選び、企画立案型のプロジェクト学習を実施している。企業から課題を受け、チームで解決していくプロセスを通じて、子どもたちの「思考リテラシー」の獲得を支援し、「人間基礎力」の向上を目指している。

②キャリア教育コーディネーターの育成

「全国キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会」に加盟し、キャリア教育コーディネーター育成講座を開講している。

【成果】

- ・毎年約10の小中高等学校、約1000名の児童・生徒にキャリア教育を実施。
（平成22年度：堺市内小学校7校、狭山市内中学校1校、大阪府立高等学校1校）
- ・毎年10名のキャリア教育コーディネーターを育成（平成22年度受講生：11名）。



Ⅳ 外部からの受託実績 (H22 実績)

受託事業	委託者	受託内容	成果
戦略的大学連携支援事業	文部科学省	インターンシップ、単位互換等を実施。	申請補助、事業協力。
大学生中途退学予防事業 (大学連携型ニート予防事業)	大阪府	南大阪地域大学コンソーシアム会員大学に中途退学の防止策を実施する支援員を派遣しそれぞれの大学において支援を行う。実施から得られた事例により課題を抽出・検討し今後の対応を検討、新たな防止策を構築していく。	・4 大学に支援員を 1 名～2 名派遣。 (他、成果集計中)
大阪府親と子のあゆみはぐくむプロジェクト	大阪府	地域の子育て支援モデル事業の効果測定及び分析、地域で簡単に実施できるプログラム骨子作成。	・調査研究の終了。
堺市地域連携型キャリア教育プロジェクト	堺市	堺市内小・中学校において、キャリア教育プログラムを実施	・7 つの堺市立小学校、約 500 名に、約 30 時間の総合学習を活用したキャリア教育を実施。
幼児教育推進事業 ～さかい保育アカデミー～	堺市	スキルアップ講座、リーダー保育士の育成講座、保育所(園)への有識者などのアドバイザー派遣による保育実践の評価検証など新たな視点にたった幼児教育推進事業を展開し、個性を伸ばす幼児教育の充実を図る	・スキルアップ講座受講者 39 名(修了者 29 名)、リーダー保育士育成講座受講者 23 名、アドバイザー派遣 2 保育所(園) ・公開講座 4 回開催
堺市産業連関表の作成	堺市	堺市独自の産業連関表に必要な計数表を作成する。	・産業連関表の作成・完成。
人文・芸術分野での産学連携に関する調査研究	堺市	堺・南大阪地域の大学が有する人文・芸術系資源の調査。当該分野における産学連携の実績調査等。	・南大阪の特徴の導出。 ・7 の提言作成。
キャリア教育コーディネーター育成事業	経済産業省	キャリア教育コーディネーター人材が身につけるべき能力を定めた基準(地域版)、研修受講生の能力を評価する指標(地域版)を内容とするキャリア教育コーディネーター育成・評価システムモデルの開発・実証等の実施	・エントリーコース受講生 11 名、実践コース 6 名が修了予定。 ・「キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会」の設立、社員としての加盟。 ・地域フォーラムの開催(80 名の参加)。
キャリア教育コーディネーター育成事業 (大学連携事業)	経済産業省	上記事業の広がりを推進するために、サテライト事業として大学連携モデルを試行し、本資格のキャリア教育コーディネーター育成機関として大学モデルの可能性を探り、今後の拡大へと繋げていくことを図る	・大学に普及させるモデルとしてキャリア教育コーディネーター育成講座を函館地域にて実施。 ・約 30 名の受講生
堺市市民経済計算推計業務	堺市	堺市の市民経済計算(生産、支出、分配の 3 面)のうち分配面、支出面について推計する	・推計完了。
学官連携による泉北ニュータウン魅力発信事業委託業務	堺市	泉北ニュータウン地域に在住・在学する大学生により、泉北ニュータウンが魅力的なまちとして、そのイメージを高めるための取組み支援を行う	・8 名の学生参加 ・活性化コンペの開催。 ・市長からの挨拶。
初頭中等教育から高等教育に向けた継続的キャリア教育指導者養成研修プログラムの開発事業の一部業務委託	大阪府立大学	掲題事業のうち、指導案作成業務、システム提供業務、ホームページ作成業務、教材資料集・報告書作成業務・パンフレット作成業務・DVD 作成業務の受託	・事業完了 ・リーフレット作成

Ⅴ 決算額(平成 22 年度収入額)

収入総額	73,431,645		円	割合: 100%
収入内訳	寄附金収入	0	円	受託実績
	参加団体負担金収入	5,290,000	円	
	事業収入	1,667,972	円	
	委託事業・助成金収入	66,298,269	円	
	補助金収入	0	円	
	上記外の収入	43,404	円	

地域と連携した産官学地域支援事業実績

南大阪地域大学コンソーシアム

年度	委託種類	内容	委託者
H23	企画運営	H23学生による堺区魅力発信事業	堺市堺区
	企画運営	消費生活ポスターコンクール業務	堺市消費生活センター
	研修	幼児教育推進事業～さかい保育アカデミー～ 「ゆめチャレンジ講座」「公開講座」	堺市子ども青少年局
	キャリア教育	「子ども堺学」等学習プログラム及び教材コンテンツ開発・ 作成業務	堺市教育委員会
	調査研究	堺市市民経済計算推計業務	堺市企画部
	調査研究	平成17年泉州地域産業連関表作成業務	(財)堺都市政策研究所
	調査研究	小学校・家庭・地域連携型ニート予防事業	大阪府雇用推進室
	調査研究	堺三大まつりにおけるアンケート調査について	(財)堺都市政策研究所
H22	キャリア教育	シマノ自転車コンクール	(株)シマノ
	インターンシップ	インターンシップ支援	戦略的・大学連携支援事業
	撮影	平成21年度留学生インターンシッププログラムの記録作成業務	ひょうご大学連携推進協議会
	撮影	平成22年度留学生インターンシッププログラムの記録作成業務	ひょうご大学連携推進協議会
	調査イベント	リンカーンプロジェクト	JOBカフェOSAKA
	イベント	道頓堀川とれとれ朝市	道頓堀川商店街
	研修	幼児教育推進事業～さかい保育アカデミー～	堺市子ども青少年局
	キャリア教育	シマノ自転車コンクール	(株)シマノ
	キャリア教育	地域連携型キャリア教育事業	堺市教育委員会
	キャリア教育	キャリア教育コーディネータ育成事業	経済産業省
	キャリア教育	キャリア教育コーディネータ育成事業（大学連携事業）	経済産業省
	調査研究	大学生中途退学予防事業（大学連携型ニート予防事業）	大阪府雇用推進室
	調査研究	大阪府親と子のあゆみはぐくむプロジェクト	大阪府福祉部子ども室
	調査研究	堺市産業連関表の作成	(財)堺都市政策研究所
	調査研究	人文・芸術分野での産学連携に関する調査研究	(財)堺都市政策研究所
H21	調査研究	堺市市民経済計算推計業務	堺市企画部
	キャリア教育	キャリア教育コーディネータ育成事業	経済産業省
	キャリア教育	地域連携型キャリア教育事業	堺市教育委員会
	キャリア教育	大和川水辺の楽校事業	堺市教育委員会
	インターンシップ	インターンシップ支援	戦略的・大学連携支援事業
	調査研究	「大阪シュア・スタートプログラム(仮称)事業」	大阪府福祉部子ども室
	研修	幼児教育推進事業～さかい保育アカデミー～	堺市子ども青少年局
H20	教材開発	伝統・文化教材開発事業「茶文化」	文部科学省
	キャリア教育	キャリア教育コーディネータ育成事業	経済産業省
	キャリア教育	地域連携型キャリア教育事業	堺市教育委員会
	キャリア教育	「堺発祥ものづくりルーツ」調査研究	(財)堺都市政策研究所
	インターンシップ	インターンシップ支援	戦略的・大学連携支援事業
	インターンシップ	長期インターンシップ支援	戦略的・大学連携支援事業
	調査研究	研究員派遣事業（市民計算）	(財)堺都市政策研究所
H19	調査研究	NPO調査	堺市生涯学習課市民活動支援担当
	講座	起業家セミナーの開催	(株)さかい新事業創造センター
	インターンシップ	長期インターンシップ	堺市
	フィールド調査	府大現代GP「南大阪の歩き方」コラボレーション	大阪府立大学（現代GP）
	研究会	府大現代GP「関空研究会」コラボレーション	大阪府立大学（現代GP）
	デザイン	グリーディングカードのデザイン	(株)シマノ
	デザイン	パパチャリデザイン	堺市商工部
	キャリア教育	地域自律民間活用型キャリア教育	経済産業省
	イベント、 悩み相談、 調査研究	堺市青少年の育成について	堺市青少年局
	イベント他	堺市教育委員会	堺市教育委員会
	イベント	マンション外壁フェンスへの子ども絵画指導	
	イベント	呈茶サービス	堺商工会議所
	イベント	留学生サミット	(財)国際交流財団
	イベント	若チャレイベント開催	「若者の人間力高める国民会議」 厚生労働省
	教材開発	文部科学省「伝統文化教材開発」	文部科学省

地域と連携した産官学地域支援事業実績

南大阪地域大学コンソーシアム

年度	委託種類	内容	委託者
H18	管理運営企画	TMO堺東駅前空き店舗の管理・運営	TMO（堺商工会議所）
	企画運営	サカイ経済新聞	南大阪地域大学コンソーシアム、 ㈱スマートバリュー
	検討会	都市再生に関する検討会の開催	堺市北区
	デザイン	堺コラボレーションおみやげの包装紙デザイン、シンボルマークの作成	堺観光コンベンション協会
	デザイン	グリーンディングカードのデザイン	（株）シマノ
	デザイン	ロゴデザイン	堺市市場連合会
	イベント他	堺市教育委員会	堺市
	イベント	The商談会 でのお点前	堺商工会議所
	イベント	堺市「おもてなし・花風景」のイベントにおける呈茶サービス	堺市緑政課
	キャリア教育	地域自律民間活用型キャリア教育	経済産業省
	インターンシップ	長期インターンシップ	堺市
	講座、製本	堺学フォーラム	（財）堺都市政策研究所
	講座	起業家セミナーの開催	㈱さかい新事業創造センター
	講座	研修会実施	近畿税理士会 泉佐野支部
	講座	講師派遣	生産技術研究会
	フィールド調査	府大現代GP「南大阪の歩き方」コラボレーション	大阪府立大学（現代GP）
	調査研究	堺市幼児教育調査研究	堺市教育委員会教育政策課
	調査研究	堺市の都市ブランド戦略（都市イメージ）に関する調査研究	（財）堺都市政策研究所
	研究会	府大現代GP「関空研究会」コラボレーション	大阪府立大学（現代GP）
H17	イベント他	堺市教育委員会	堺市
	イベント	関空イベント夏まつり	関西国際空港
	製品開発企画販売	新素材を活用した商品開発・販売促進	（有）ワイズ・ラブ
	管理運営企画	堺東駅前空き店舗の管理・運営	TMO（堺商工会議所）
	企画運営	さかい経済新聞	南大阪地域大学コンソーシアム、 ㈱スマートバリュー
	会議	会議記録等	堺市児童相談所開設準備室
	デザイン	自転車デザイン	
	HP作成	HP作成	山之口商店街
	キャリア教育	キャリア教育プロジェクト	経済産業省
	インターンシップ	長期インターンシップ	堺市
	講座、製本	堺学フォーラム	（財）堺都市政策研究所
	講座	研修会実施	近畿税理士会 泉佐野支部
	講座	起業家セミナーの開催	㈱さかい新事業創造センター
	調査研究	堺市の都市ブランド戦略（都市イメージ）に関する調査研究	（財）堺都市政策研究所
	フィールド調査	面白マップ作り	（財）大阪観光コンベンション協会
	フィールド調査	府大現代GP「南大阪の歩き方」コラボレーション	大阪府立大学（現代GP）
H16	講座、製本	堺学フォーラム	（財）堺都市政策研究所
	講座	起業家セミナーの開催	㈱さかい新事業創造センター
	講座	経営者塾の講師	㈱FUDAI
	企画デザイン	関空内ラウンジの内装に関する企画デザイン	関西国際空港㈱
	ボランティア	新地球RUN IN KIX	関西国際空港㈱
	イベント	関空イベント	南大阪地域大学コンソーシアム
	調査研究	堺市リサイクルの活動拠点づくりのためのスキームづくり	（財）堺都市政策研究所
	調査研究	観光地を評価する指標づくり	堺市市長公室企画部 都市再生
	調査研究	南大阪歩き方	南大阪地域大学コンソーシアム
	調査研究	企業立地施策に係る基礎調査研究2	（財）堺都市政策研究所
	調査研究	年長児童と乳幼児の交流における相互の発達要因についての研究	堺市健康福祉局 児童福祉部 児童家庭課 相談支援グループ
	イベント	堺市緑化センター「夏祭りイベント」への呈茶	堺市緑化センター
	管理運営企画	堺東駅前空き店舗の活用	TMO（堺商工会議所）
	管理運営	堺市茶室の運営及び活用	（財）公園協会
	ミーティング	新素材を活用した商品企画のためのアイディア・ラッシュ・ミーティング	（有）ワイズ・ラブ
	企画運営	さかい経済新聞	南大阪地域大学コンソーシアム、 ㈱スマートバリュー
H15	調査研究	企業立地施策に係る基礎調査研究	（財）堺都市政策研究所

キミのアイデアが関空を活かす!
学び、考え、行動する3日間!

関西国際空港を
フィールドに

2泊3日集中講座

in ホテル日航関西空港

社会人として求められている、“大切なチカラ”、
それは「論理力」「プレゼンテーション能力」
「主体性」「課題発見・解決能力」。

この講座では、密度の濃い講義と、
関空でのフィールドワークを通じて、

これらの全てを身に付けることをめざします。

また、多彩なゲストティーチャーや、他大学の学生さんたちの、
すばらしい出会いの場があります。

この3日間で、あなたも、学び、考え、行動する人になりませんか?

受講定員72名
参加者募集中!

(定員になり次第締め切ります)

この講座は南大阪地域大学コンソーシアムの
単位互換制度の「センター科目」です。
評価に応じて、単位が認定されます。

1
日目

グループでゲームや課
題に取り組み、プレゼ
ンテーションに初チャ
レンジ! 講演もあり。

2
日目

テーマを決めて、関空
内でフィールドワー
クへ。その後、中間プ
レゼンテーション。

3
日目

最後の追い込み!
ブラッシュアップ後、
プレゼンテーション。
修了後、交流会に!

- 科目開設大学：羽衣国際大学 2単位
- センター科目名：「キャリアと社会」ー社会の中で自分を生かす方法ー
- 期間：平成23年夏期休暇中の9月6日(火)・7日(水)・8日(木)の3日間
- 講座内容：2泊3日の集中講座
- 場所：ホテル日航関西空港
- 参加費：2万1000円(宿泊2泊・朝食2回・昼食3回・夕食2回・交流会費が含まれます)
- 締切日：平成23年6月30日(木)
- 申込み方法：所属大学の教務課(学務課)の窓口担当者にお申込み下さい。参加費支払い方法に関しては申込時に窓口担当者にお尋ね下さい。(キャンセルに関してはキャンセル料が発生する場合があります)
- 参加条件：南大阪地域大学コンソーシアム単位互換制度参加大学の学生

(大阪大谷大学・大阪大谷大学短期大学部・大阪芸術大学・大阪女子短期大学・大阪府立大学・大阪夕陽丘学園短期大学・関西福祉科学大学・近畿大学生物理工学部・帝塚山学院大学・羽衣国際大学・阪南大学・プール学院大学・プール学院大学短期大学部・桃山学院大学・和歌山大学・教育ネットワーク中国単位互換参加校)

*講座の詳しいお問い合わせは、特定非営利活動法人南大阪地域大学コンソーシアム事務局へ
〒591-8025 大阪府堺市北区長曽根町130-42 さかい新事業創造センター1F

TEL 072-258-7646 FAX 072-258-7641 URL www.osaka-union.org

協力:関西空港株式会社、ホテル日航関西空港

2泊3日集中講座 キミのアイデアが関空を活かす! 学び、考え、行動する3日間!



センター科目「キャリアと社会」 羽衣国際大学 科目提供 —社会の中で自分を生かす方法—講座プログラム

	9/6 (火) 1日目	9/7 (水) 2日目	9/8 (木) 3日目
1 限 (8:30~10:00)	9:30 受付開始 10:00 集合	グループ別アドバイス プロジェクトシートの内容を確認し、グループごとに個別アドバイスを受けます。フィールドワークで検証すべき仮説を明確化します。	ブラッシュアップ 中間発表の結果をふまえて、企画・プレゼンテーションの内容をブラッシュアップします。各教員から、個別アドバイスをもらい、必要に応じて追加フィールドワークをします。ディスカッション、アドバイス、追加フィールドワークを通して、企画・プレゼンの完成度を高めます。
2 限 (10:10~11:40)	オリエンテーション・グルーピング この講座の目的と流れ、到達目標について説明し、グループわけをします。	フィールドワーク グループごとのテーマに沿って、関空内でフィールドワークを行います。	
昼食休憩 (11:40~13:00)	Lunch		
3 限 (13:00~14:30)	ミッション伝達 現場の状況を確認。関空が抱える課題を知ります。	フィールドワーク、関空への質問 プレゼンテーション作成 適宜、進捗をチェックし、仮説や計画を再検討します。そして、フィールドワークの結果をふまえて、各グループの企画をまとめ、プレゼンテーション用の資料を作成します。	最終プレゼンテーション、評価 グループごとにフィールドワークをふまえた企画を発表、第三者からの評価・アドバイスを得ます。講座の成果について、グループ内全体で共有します。
4 限 (14:40~16:10)	コラボレーション、課題設定 コラボレーションゲーム後、グループごとで取り組む課題を設定。プロジェクトシートを活用した思考リテラシーを解説します。		
5 限 (16:20~17:50)	思考リテラシー プロジェクトシートを作成、活用して課題、強み・弱み、ターゲット、ベネフィットの分析をします。	プレゼンテーション作成 フィールドワークの結果をまとめ、各グループの企画をまとめます。プレゼンテーション資料を作成します。	ふりかえりとまとめ 3日間の流れと学びの確認をします。各教員から全体講評を聞きます。 17:00 修了式(修了証授与) 17:30 交流会 参加者の親睦を深めるとともに、講座を振り返ります。今回の講座での学びを今後の人生にどのように役立てるかをディスカッションします。
夕食休憩 (17:50~19:00)	Dinner		
6 限 (19:00~20:30)	課題プレゼンテーション 課題プレゼンテーションの説明後、グループごとにプレゼン開始。プロジェクトシートの強化、課題解決の道筋の明確化をめざします。そして翌日のフィールドワークの視点を設定します。	中間プレゼンテーション 中間プレゼンテーションをおこなった後、全体インプット。仮説、調査結果、企画、プレゼンの不備に気づく機会を設けます。	
7 限 (20:40~22:10)	講演 「生きること、仕事をする、学ぶこと」 講師 渡辺一馬氏 (株式会社デュナミス代表取締役)	講師profile 78年宮城県生まれ。大学在学中に学生ベンチャーサークル・デュナミスへ参画。2001年3月、卒業と同時にデュナミスを会社法人化し、代表に就任する。その後、NPO等と連携して地域を担う若者育成事業に取り組んでいる。	

参加学生の声 voice

- 問題への取り組み姿勢を身につけられた。
- 協調性、コミュニケーション力が向上したように思う。
- 伝える力が身に付いた。また人の話を聞く力も付いた。
- 人としゃべるのが嫌いだったはずの自分が生まれ変わって、今、自分は自分を変えていく力をつけて成長できたと思った。
- 今まで言われた事をやるだけでしたが、少しでも自分から進んで行動できるようになった。

指導教員 staff

- 燈田順子氏 (羽衣国際大学現代社会学科学科長)
- 寺田友子氏 (桃山学院大学法学部教授)
- 大串恵太氏 (和歌山大学キャリアオフィス特任助教)
- 松浦 真氏 (NPO法人こども盆栽代表理事)
- 松崎光弘氏 (株式会社出藍社代表取締役)

平成 23 年度 愛媛大学 広報トップセミナーの開催について

広報室では、本学の広報戦略を担う皆様を対象に、下記のとおり「広報トップセミナー」を開催しますので、万障お繰り合わせの上、ご参加くださいますようお願いいたします。

記

日 時:平成24年2月1日(水)14:00～16:00

場 所:法文学部大会議室(法文学部本館 8階)

演 題:組織力の向上に向けた大学のマネジメントと広報

— 東日本大震災を機に大学のこれからを考える —(仮題)

講 師:吉武 博通 氏 (筑波大学大学院ビジネス科学研究科教授, 大学研究センター長)

概 要: 大学が、一体感のある様々な取組を進めていくためには、各構成員への理念・目標の浸透、構成員間の信頼関係の構築、円滑な意思疎通などを図っていくことが必要です。また、今年 3 月 11 日の東日本大震災は、未曾有の事態となりました。今後四国地区でも、東南海・南海地震による大災害が予想されるところですが、今後起こり得る不測の事態に少しでも柔軟に対応するためにも、日頃から組織力を向上させておくことが不可欠です。

このため、今年度の広報セミナーでは、「組織力の向上」に焦点をあて、そのために重要な役割を担う、大学のマネジメントと広報の在り方について、ご講演をいただきます。

対象者:役員、各部局等の長、事務系幹部職員(副課長以上)、広報企画会議委員、
広報連絡会委員、各部局等の広報委員、広報室員 等

このほか、SPOD 加盟校 にも開放

連絡先:総務部広報室 内線 9022,8968 E-mail koho@stu.ehime-u.ac.jp

講師プロフィール

吉武 博通(よしたけ ひろみち)氏

筑波大学大学院ビジネス科学研究科教授,
大学研究センター長



略歴

1977 年 九州大学法学部卒業

同 新日本製鐵株式会社入社

1991 年 同 総務部組織室長

1997 年 同 総務部総務・組織グループリーダー

2000 年 同 ステンレス事業部光製鉄所総務部長
(子会社2社の代表取締役社長兼務)

2003 年 筑波大学社会工学系教授、企画調査室員

2004 年 同 大学院ビジネス科学研究科教授、学長特別補佐

2006 年 同 理事・副学長

2009 年 同 大学院ビジネス科学研究科教授、大学研究センター長

論文等

「大学を強くする～大学経営改革」を『カレッジマネジメント』に連載中(2005 年 3 月より開始、
2011 年 3 月までに計 36 回)

「スタートした国立大学法人」を『カレッジマネジメント』に連載(2005 年 1 月～2006 年 11 月まで
計8回)

「国立大学の将来像と大学改革の方向性」『大学財務経営研究』第 3 号,159-174, 2006

「警察幹部に向けた組織マネジメント論」『警察学論集』第 56 巻第 4 号 p129-145,2003

(筑波大学ホームページから抜粋)